

講義コード	U360100101	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I A		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 西1-308.通年 火曜日 2時限 対面授業.通年 木曜日 2時限 西1-308.通年 木曜日 2時限 対面授業		

### 授業概要

週2回、1年間でフランス語の基礎を学ぶ。

### 到達目標

フランス語読解のための文法を習得し、基本的なフランス語のテキストを読むことができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	文字と発音
第3回	Leçon 1 (1): 名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第4回	Leçon 1 (2): 人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第5回	Leçon 2 (1): être、avoir、否定文2
第6回	Leçon 2 (2): 疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第7回	Leçon 3 (1): 第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第8回	Leçon 3 (2): 近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第9回	Leçon 4 (1): 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第10回	Leçon 4 (2): 比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第11回	Leçon 5 (1): 複合過去、関係代名詞1
第12回	Leçon 5 (2): 強調構文、受動態、命令法
第13回	Leçon 6 (1): 人称代名詞の目的補語
第14回	Leçon 6 (2): 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第15回	理解度の確認
第16回	Leçon 7 (1): 代名動詞
第17回	Leçon 7 (2): 中性代名詞
第18回	Leçon 8 (1): 半過去、大過去、時制の一致1
第19回	Leçon 8 (2): 疑問代名詞2、関係代名詞2
第20回	Leçon 9 (1): 単純未来、前未来
第21回	Leçon 9 (2): 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第22回	Leçon 10 (1): 条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第23回	Leçon 10 (2): 知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第24回	Leçon 11 (1): 直接話法と間接話法
第25回	Leçon 11 (2): 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第26回	Leçon 12 (1): 接続法現在、接続法過去
第27回	Leçon 12 (2): 接続法の用法
第28回	補遺: 単純過去、前過去
第29回	補遺: 接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形、自由間接話法
第30回	理解度の確認

### 授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

### 授業方法

講義および問題演習

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

### 準備学習(予習・復習)

授業前には指示した個所の問題をやっておくこと。授業後は、その日に学んだ文法事項、単語、表現などを復習し、疑問点があれば次の授業で質問すること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト	10 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テストの答えは返却し、授業内で解説を行う。

### 教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018,978-4-255-36280-0

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,2015, 978-4-255-35252-7

### 参考文献コメント

辞書、参考書など、教室で指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

予習・復習を欠かさないこと。

講義コード	U360100102	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I B		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	田上 竜也		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 西2-403.通年 火曜日 2時限 対面授業.通年 木曜日 2時限 西2-403.通年 木曜日 2時限 対面授業		

### 授業概要

週2回、1年間でフランス語の発音と基礎文法を学ぶ。

### 到達目標

フランス語の基礎文法をひとつおろし学び、辞書を使って簡単なテキストが読解できる力を身に着ける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	一般的注意。辞書、参考文献などの指示。アルファベ。発音の基礎
第2回	発音の続き。綴り字の読み方
第3回	教科書の内容に即した文法学習。練習問題
第4回	同上
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	前期のまとめ
第16回	教科書の内容に即した文法学習、練習問題
第17回	同上
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	以下、フランス語の簡単なテキストを読む
第22回	同上
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	後期のまとめ

### 授業計画コメント

授業進度は、学習者の理解度にあわせて調節する

### 授業方法

原則対面による演習、場合によりZoom使用

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

## 準備学習(予習・復習)

事前に当該箇所を読み、下調べをすること。また必ず復習もすること。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	25 %	
学年末試験(第2学期)	25 %	
中間テスト	0 %	
レポート	0 %	
小テスト	25 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	出席、聴講態度重視
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):25%(聴講態度重視) 第2学期(学年末試験):25%(試験の成績による) 第1学期(学期末試験):25%(試験の成績による) 真摯に学習することはもちろんであるが、さらに聴講態度も重視する。居眠り、私語、飲食(ガム、飴含む)、無断退出、メールなどは減点対象となり、はなはだしい場合には単位取得不可とみなす場合もある。小テスト:25%(動詞活用や単語などについて随時行う)

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第1学期末試験および小テストは返却する。第2学期末試験は返却しないが、成績に疑問があれば質問に答える。

## 教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018,978-4-255-36280-0

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,2015,978-4-255-35252-7 C1085

## 教科書コメント

学習院大学文学部フランス語圏文化学科作成の教科書。授業開始前に指定する。

## 参考文献コメント

辞書など、教室で指示する。

## 履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

## その他

履修態度も平常点に含む。授業中の飲食(ガム、飴など)、携帯電話、スマートフォン利用、居眠り、私語、途中退出(必要な場合には申告すること)は大きな減点対象となるので注意すること。

講義コード	U360100103	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I C		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 中央-405.通年 火曜日 2時限 対面授業.通年 木曜日 2時限 中央-405.通年 木曜日 2時限 対面授業		

### 授業概要

1年間でフランス語初級文法を一通り学ぶ。

### 到達目標

第1学期は、まずフランス語特有の文法(特に動詞の活用)と発音に慣れること。  
1年間の目標としては、辞書を使えばある程度の長文も読解できるようになること。フランス語の綴りと発音の関係を理解し、初見の文章でも音読できること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション / 文字と発音
第2回	教科書第1課
第3回	教科書第1課の続き
第4回	教科書第2課
第5回	教科書第2課の続き
第6回	教科書第3課
第7回	教科書第3課の続き
第8回	教科書第4課
第9回	教科書第4課の続き
第10回	教科書第5課
第11回	教科書第5課の続き
第12回	教科書第6課
第13回	教科書第6課の続き
第14回	理解度の確認
第15回	まとめ
第16回	教科書第7課
第17回	教科書第7課の続き
第18回	教科書第8課
第19回	教科書第8課の続き
第20回	教科書第9課
第21回	教科書第9課の続き
第22回	教科書第10課
第23回	教科書第10課の続き
第24回	教科書第11課
第25回	教科書第11課の続き
第26回	教科書第12課
第27回	教科書第12課の続き
第28回	補遺
第29回	理解度の確認
第30回	まとめ

### 授業計画コメント

授業内容・進捗については修正・変更を加えていく可能性あり。

### 授業方法

文法事項などを教員が説明したあと、練習問題を受講者が解く。練習問題のほか、例文なども受講者に音読してもらう。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

文法事項の説明のあとすぐに練習問題にとりかかることもあるので、練習問題は予習しておくこと。また、知識を定着させるためには毎回の授業後に復習をすること。予習復習には教科書添付の音声資料を使用する。疑問点・不明点などがある場合は授業時に質問をすること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

上記の数字はあくまでも目安だが、学年末試験は一年間の総まとめであるため、評価の比重は重い。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テスト、および第一学期末テストの返却時には授業内で解説をする。

### 教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018,978-4-255-36280-0

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,978-4-255-35252-7

### 参考文献コメント

辞書については、紙媒体の辞書を勧める。教科書についてもデジタル化せずに紙媒体のままでの使用を進める。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

新しい言語を学ぶには、反復練習と暗記は欠かせない。教科書添付の音声資料を最大限に活用して予習復習をすること。

講義コード	U360101101	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡA		
副題	フランス語読解とフランス語実践文法演習		
英文科目名	Practical works on the basic French language, II		
担当者名	中条 省平.鈴木 重周		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 月曜日 2時限 西2-403.通年 月曜日 2時限 対面授業.通年 木曜日 5時限 西2-403.通年 木曜日 5時限 対面授業		

### 授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

また、仏文読解の授業(中条担当)において、4年次での卒論執筆の準備となるような小論文執筆のための演習をおこなう。

### 到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に拡げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習(中条担当)を行い、毎週もう1つの回では、フランス語の実践的文法演習(鈴木担当)を行う。
第2回	テキスト読解、フランス語実践演習(1)
第3回	テキスト読解、フランス語実践演習(2)
第4回	テキスト読解、フランス語実践演習(3)
第5回	テキスト読解、フランス語実践演習(4)
第6回	テキスト読解、フランス語実践演習(5)
第7回	テキスト読解、フランス語実践演習(6)
第8回	テキスト読解、フランス語実践演習(7)
第9回	テキスト読解、フランス語実践演習(8)
第10回	テキスト読解、フランス語実践演習(9)
第11回	テキスト読解、フランス語実践演習(10)
第12回	テキスト読解、フランス語実践演習(11)
第13回	テキスト読解、フランス語実践演習(12)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	テキスト読解、フランス語実践演習(13)
第17回	テキスト読解、フランス語実践演習(14)
第18回	テキスト読解、フランス語実践演習(15)
第19回	テキスト読解、フランス語実践演習(16)
第20回	テキスト読解、フランス語実践演習(17)
第21回	テキスト読解、フランス語実践演習(18)
第22回	テキスト読解、フランス語実践演習(19)
第23回	テキスト読解、フランス語実践演習(20)
第24回	テキスト読解、フランス語実践演習(21)
第25回	テキスト読解、フランス語実践演習(22)
第26回	テキスト読解、フランス語実践演習(23)
第27回	テキスト読解、フランス語実践演習(24)
第28回	テキスト読解、フランス語実践演習(25)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

### 授業計画コメント

対面授業が基本だが、2023年度もコロナ禍の状況は見通せない。その場合、感染状況によって計画や内容を弾力的に変化させる可能性がある。

## 授業方法

演習形式でおこなう。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで、練習問題などを行うこと(約1時間)。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):40% 第1学期(学期末試験):40% 小テスト:10% 学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果、授業参加への積極性を考慮して総合的に採点する。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

## 教科書コメント

授業時に指示する。

## 参考文献コメント

必要に応じて授業中に教示する。

## 履修上の注意

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360101102	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡB		
英文科目名	Practical works on the basic French language, Ⅱ		
担当者名	内藤 真奈.土橋 友梨子		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 火曜日 1時限 北1-301.通年 火曜日 1時限 対面授業.通年 木曜日 5時限 北1-301.通年 木曜日 5時限 対面授業		

### 授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

### 到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に広げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、中級文法の演習を行う。
第2回	テキスト読解、文法演習(1)
第3回	テキスト読解、文法演習(2)
第4回	テキスト読解、文法演習(3)
第5回	テキスト読解、文法演習(4)
第6回	テキスト読解、文法演習(5)
第7回	テキスト読解、文法演習(6)
第8回	テキスト読解、文法演習(7)
第9回	テキスト読解、文法演習(8)
第10回	テキスト読解、文法演習(9)
第11回	テキスト読解、文法演習(10)
第12回	テキスト読解、文法演習(11)
第13回	テキスト読解、文法演習(12)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	テキスト読解、文法演習(13)
第17回	テキスト読解、文法演習(14)
第18回	テキスト読解、文法演習(15)
第19回	テキスト読解、文法演習(16)
第20回	テキスト読解、文法演習(17)
第21回	テキスト読解、文法演習(18)
第22回	テキスト読解、文法演習(19)
第23回	テキスト読解、文法演習(20)
第24回	テキスト読解、文法演習(21)
第25回	テキスト読解、文法演習(22)
第26回	テキスト読解、文法演習(23)
第27回	テキスト読解、文法演習(24)
第28回	テキスト読解、文法演習(25)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

### 授業計画コメント

上記の内容に加え、読解の授業においては4年次での卒論執筆の準備となるようなレポートの書き方についての演習も行う。

### 授業方法

演習形式

文法事項の説明、練習問題の解説、仏文和訳の読解と解説を行う。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで発表の準備をし、練習問題などを行うこと(約1時間)。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	小テスト、訳読の出来具合による
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果などを考慮して総合的に採点する。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験やレポートは実施後に採点、コメントをつけて返却する。

## 授業計画コメント

上記の内容に加え、読解の授業においては4年次での卒論執筆の準備となるようなレポートの書き方についての演習も行う。

## 授業方法

演習形式

文法事項の説明、練習問題の解説、仏文和訳の読解と解説を行う。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで発表の準備をし、練習問題などを行うこと(約1時間)。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	小テスト、訳読の出来具合による
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果などを考慮して総合的に採点する。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験やレポートは実施後に採点、コメントをつけて返却する。

## 教科書

マリと一緒に! フランス語の表現とテーマ,久保田 静香、ジョルジュ・ヴェスィエール,朝日出版社,2022,978-4-255-35332-6

## 教科書コメント

授業時に指示・配布(内藤)

上記教科書使用(土橋)

## 参考文献コメント

授業時に指示

## 履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360101103	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡC		
副題	フランス語読解とフランス語実践文法演習		
英文科目名	Practical works on the basic French language, II		
担当者名	澁谷 与文, 川口 覚子		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 火曜日 1時限 北1-302.通年 火曜日 1時限 対面授業.通年 木曜日 5時限 北1-302.通年 木曜日 5時限 対面授業		

### 授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。  
読解クラスでは年に数回、4年次での卒論執筆の準備となるような日本語の文章表現、論文・レポートの書き方に関する演習を行う。

### 到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に広げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	テキスト読解、フランス語実践演習(1)
第3回	テキスト読解、フランス語実践演習(2)
第4回	テキスト読解、フランス語実践演習(3)
第5回	テキスト読解、フランス語実践演習(4)
第6回	テキスト読解、フランス語実践演習(5)
第7回	テキスト読解、フランス語実践演習(6)
第8回	テキスト読解、フランス語実践演習(7)
第9回	テキスト読解、フランス語実践演習(8)
第10回	テキスト読解、フランス語実践演習(9)
第11回	テキスト読解、フランス語実践演習(10)
第12回	テキスト読解、フランス語実践演習(11)
第13回	テキスト読解、フランス語実践演習(12)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	テキスト読解、フランス語実践演習(13)
第17回	テキスト読解、フランス語実践演習(14)
第18回	テキスト読解、フランス語実践演習(15)
第19回	テキスト読解、フランス語実践演習(16)
第20回	テキスト読解、フランス語実践演習(17)
第21回	テキスト読解、フランス語実践演習(18)
第22回	テキスト読解、フランス語実践演習(19)
第23回	テキスト読解、フランス語実践演習(20)
第24回	テキスト読解、フランス語実践演習(21)
第25回	テキスト読解、フランス語実践演習(22)
第26回	テキスト読解、フランス語実践演習(23)
第27回	テキスト読解、フランス語実践演習(24)
第28回	テキスト読解、フランス語実践演習(25)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

### 授業計画コメント

毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、フランス語の実践的文法演習を行う。

## 授業方法

演習形式

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながらテキスト読解・フランス語実践演習の授業準備を行うこと(それぞれ約1時間)。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):40% 第1学期(学期末試験):40% 小テスト:10% 学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果、授業参加への積極性を考慮して総合的に採点する。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

## 授業計画コメント

毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、フランス語の実践的文法演習を行う。

## 授業方法

演習形式

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながらテキスト読解・フランス語実践演習の授業準備を行うこと(それぞれ約1時間)。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):40% 第1学期(学期末試験):40% 小テスト:10% 学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果、授業参加への積極性を考慮して総合的に採点する。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

## 教科書コメント

授業時に指示する。

## 履修上の注意

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360102101	科目ナンバリング	036A103
講義名	フランス語演習A		
副題	Traduire en français		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 5時限 北1-304.通年 木曜日 5時限 対面授業		

### 授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

### 到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	Etc.
第7回	Etc.
第8回	Etc.
第9回	Etc.
第10回	Etc.
第11回	Etc.
第12回	Etc.
第13回	Etc.
第14回	Etc.
第15回	Etc.
第16回	Etc.
第17回	Etc.
第18回	Etc.
第19回	Etc.
第20回	Etc.
第21回	Etc.
第22回	Etc.
第23回	Etc.
第24回	Etc.
第25回	Etc.
第26回	Etc.
第27回	Etc.
第28回	Etc.
第29回	Etc.
第30回	Etc.

### 授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

### 授業方法

J'interrogerai les étudiants un par un au cours de l'année (au moins deux fois par semestre) et les prierai de venir écrire au

tableau la traduction qu'ils proposent d'une phrase donnée.

### 使用言語

日本語・英語以外

### 準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux, que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que les examens seront rendus accompagnés de commentaires et d'un corrigé expliqué en classe.

### 履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360102102	科目ナンバリング	036A103
講義名	フランス語演習B		
副題	Traduire en français		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 西1-204.通年 水曜日 3時限 対面授業		

### 授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

### 到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	Etc.
第7回	Etc.
第8回	Etc.
第9回	Etc.
第10回	Etc.
第11回	Etc.
第12回	Etc.
第13回	Etc.
第14回	Etc.
第15回	Etc.
第16回	Etc.
第17回	Etc.
第18回	Etc.
第19回	Etc.
第20回	Etc.
第21回	Etc.
第22回	Etc.
第23回	Etc.
第24回	Etc.
第25回	Etc.
第26回	Etc.
第27回	Etc.
第28回	Etc.
第29回	Etc.
第30回	Etc.

### 授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

### 授業方法

J'interrogerai les étudiants un par un au cours de l'année (au moins deux fois par semestre) et les prierai de venir écrire au

tableau la traduction qu'ils proposent d'une phrase donnée.

### 使用言語

日本語・英語以外

### 準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux, que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que les examens seront rendus accompagnés de commentaires et d'un corrigé expliqué en classe.

### 履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360102103	科目ナンバリング	036A103
講義名	フランス語演習C		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	BIZET, Francois Henri		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 南1-206.通年 水曜日 3時限 対面授業		

### 授業概要

Apprendre à écrire un récit

### 到達目標

Ce cours doit permettre aux étudiants :

- 1) d'améliorer leurs compétences en français écrit
- 2) de réussir à écrire un récit (au passé)
- 3) de réussir à écrire un commentaire
- 4) d'élargir leur culture cinématographique

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction générale
第2回	Biographie de Perec
第3回	Biographie de Duras
第4回	Exercices sur la biographie
第5回	Travail sur Le Ballon rouge d'Albert Lamorisse (1)
第6回	Travail sur Le Ballon rouge d'Albert Lamorisse (2)
第7回	Travail sur Le Ballon rouge d'Albert Lamorisse (3)
第8回	Travail sur Crin Blanc d'Albert Lamorisse (1)
第9回	Travail sur Crin Blanc d'Albert Lamorisse (2)
第10回	Travail sur Crin Blanc d'Albert Lamorisse (3)
第11回	Travail sur Rashomon de Kurosawa Akira (1)
第12回	Travail sur Rashomon de Kurosawa Akira (2)
第13回	Travail sur Rashomon de Kurosawa Akira (3)
第14回	Travail sur Rashomon de Kurosawa Akira (4)
第15回	Travail sur Rashomon de Kurosawa Akira (5)
第16回	Récit des vacances d'été et correction
第17回	Travail sur Rosetta des frères Dardenne (1)
第18回	Travail sur Rosetta des frères Dardenne (2)
第19回	Travail sur Rosetta des frères Dardenne (3)
第20回	Travail sur Rosetta des frères Dardenne (4)
第21回	Travail sur Rosetta des frères Dardenne (5)
第22回	Travail sur Rosetta des frères Dardenne (6)
第23回	Travail sur Rosetta des frères Dardenne (7)
第24回	Introduction historique au film de Louis Malle, Au revoir les enfants (1)
第25回	Introduction historique au film de Louis Malle, Au revoir les enfants (2)
第26回	Travail sur Au revoir les enfants de Louis Malle (1)
第27回	Travail sur Au revoir les enfants de Louis Malle (2)
第28回	Travail sur Au revoir les enfants de Louis Malle (3)
第29回	Travail sur Au revoir les enfants de Louis Malle (4)
第30回	Travail sur Au revoir les enfants de Louis Malle (5)

### 授業方法

Les cours auront lieu en présence. Une participation active des étudiants est demandée.

### 使用言語

日本語・英語以外

### 準備学習(予習・復習)

Les textes seront fournis à l'avance et devront être préparés, à la demande, pour le cours suivant.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les productions des étudiants seront corrigées et commentées individuellement et feront l'objet d'une reprise pendant le cours.

### 履修上の注意

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103101	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールA		
副題	サン＝テグジュペリ研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 南1-103.通年 火曜日 3時限 対面授業		

### 授業概要

第二次世界大戦にフランス軍のパイロットとして従軍したサン＝テグジュペリが、自らの戦争体験を元に描いた自伝的小説である『戦う操縦士』(1942)を読む。発表とディスカッションを中心に進めるため、積極的な参加が求められる。

### 到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	サン＝テグジュペリおよび『戦う操縦士』についての解説
第3回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第4回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第5回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第6回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第7回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第8回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(6)
第9回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(7)
第10回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(8)
第11回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(9)
第12回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(10)
第13回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(11)
第14回	まとめ
第15回	総括
第16回	後期ガイダンス
第17回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(12)
第18回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(13)
第19回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(14)
第20回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(15)
第21回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(16)
第22回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(17)
第23回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(18)
第24回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(19)
第25回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(20)
第26回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(21)
第27回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(22)
第28回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(23)
第29回	まとめ
第30回	総括

### 授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

### 授業方法

演習

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	夏期レポートおよび学年末レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

**成績評価コメント**

上記の割合はあくまで目安である。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

**教科書**

Pilote de guerre: Folio, Saint-Exupéry, Gallimard, 978-2070368242

**参考文献**

戦う操縦士: 光文社古典新訳文庫, サン = テグジュペリ, 光文社, 2018, 978-4334753726

**履修上の注意**

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103102	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールB		
副題	文学と建築		
英文科目名	Seminar		
担当者名	田上 竜也		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 3時限 西2-403.通年 月曜日 3時限 対面授業		

### 授業概要

文学や諸芸術と建築とのかかわりを、さまざまなテキストを題材に考察します。

### 到達目標

作家、作品について理解を深めるとともに、文学や建築についての教養を深めます。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト訳読
第3回	〃
第4回	〃
第5回	テキスト訳読、学生発表
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	テキスト訳読、レポートの書き方指導
第17回	テキスト訳読、学生発表
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	テキスト訳読
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

### 授業計画コメント

テキストは随時コピー配布します。初回の授業で、学生のみなさんと相談のうえ、いくつかの候補から決定します。

### 授業方法

原則対面によるが、場合によりZoom使用

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

特に担当箇所は十分準備すること(約2、3時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	
学年末試験(第2学期)	0 %	
中間テスト	0 %	
レポート	50 %	プレゼンテーションおよび配布資料作成
小テスト	0 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	0 %	

### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(出席、訳読、聴講態度) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴含む)、無断退出、メールなどは減点対象となります。レポート:50%(授業内発表のレジュメ)

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表についてその都度コメントにより評価する。

### 教科書コメント

コピー配布。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103103	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールC		
副題	フランス映画史研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	中条 省平		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 西2-305.通年 木曜日 2時限 対面授業		

### 授業概要

トーカー以降の映画史の名せりふを集めた『映画の最も名高い台詞の歴史』(ヴィダル&グラセール共編)を題材にして、エスプリにみちたフランス語を読み解く方法を学び、同時に、映画の歴史および20世紀フランスの社会状況や思想について研究する。

### 到達目標

映画の見方を理解し、フランス映画史の概略およびフランス文化史の基礎を把握し、批評および口語に用いられるフランス語の読み方を上達させられるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	映画作家の紹介および作品の内容概説
第2回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(1)
第3回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(2)
第4回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(3)
第5回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(4)
第6回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(5)
第7回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(6)
第8回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(7)
第9回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(8)
第10回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(9)
第11回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(10)
第12回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(11)
第13回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(12)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(13)
第17回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(14)
第18回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(15)
第19回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(16)
第20回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(17)
第21回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(18)
第22回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(19)
第23回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(20)
第24回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(21)
第25回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(22)
第26回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(23)
第27回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(24)
第28回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(25)
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

### 授業計画コメント

対面授業が基本である。

とはいえ、コロナ禍の感染状況によって、2023年度も計画および内容が変化する可能性があることに留意されたい。

### 授業方法

演習形式による

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

徹底的に辞書を引きながら、また、未知の事項を百科事典、映画事典など適切な事典類を用いて調べながら、原書テキストの5ページほどを読んでおくこと(1時間半)。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30% 第2学期(学年末試験):70%

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

## 教科書コメント

詳細は第1回目の授業で指示する。

## 参考文献コメント

Vidal&Glasser :Histoire des plus célèbres répliques du cinéma (Ramsay)

## 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103104	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールD		
副題	翻訳者への第一歩		
英文科目名	Seminar		
担当者名	堀内 ゆかり		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 3時限 西2-406.通年 月曜日 3時限 対面授業		

### 授業概要

フランス語の文章をよく読み、意味を正確に理解したうえで、もとの文章の雰囲気を保つ日本語にするトレーニングをします。原文のリズムを感じるためには音読、原文を正確に読むにはフランス語力も不可欠です。自分の興味に応じたテーマに関する発表も予定しています。

今年度は Jean de Brunhoff による<ぞうのババール>シリーズの4作目『ゼフィールの夏休み』(初版1936年)を読みます。

### 到達目標

「自分で考える」とは？ 翻訳や発表を通じて「自分で考える」ことを体得する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction(1) Jean de Brunhoff の<ぞうのババール>シリーズについて
第2回	Introduction(2) 初期3部作について
第3回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第4回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第5回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第6回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第7回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第8回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第9回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第10回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第11回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第12回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第13回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第14回	まとめ
第15回	振り返り
第16回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント フランス語力測定
第17回	学生による発表、学生相互によるコメント
第18回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第19回	学生による発表、学生相互によるコメント
第20回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第21回	学生による発表、学生相互によるコメント
第22回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第23回	学生による発表、学生相互によるコメント
第24回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第25回	学生による発表、学生相互によるコメント
第26回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第27回	学生による発表、学生相互によるコメント
第28回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第29回	まとめ
第30回	振り返り

### 授業方法

演習形式。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

翻訳(1時間以上)

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	10 %	
学年末試験(第2学期)	10 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	参加度で評価します
その他(備考欄を参照)		

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

原則として返却します

**教科書コメント**

廉価版が存在しないため、コピーを使用します。

**履修上の注意**

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103105	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールE		
副題	Victor Hugo, Les Orientales		
英文科目名	Seminar		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 西1-214.通年 火曜日 3時限 対面授業		

### 授業概要

Nous lirons un certain nombre de poèmes appartenant au recueil de Victor Hugo intitulé Les Orientales, publié en 1829. Dans ce livre de relative jeunesse, Hugo (déjà très célèbre mais qui n'a que vingt-sept ans) traite d'un sujet mis à la mode par la guerre d'indépendance livrée par la Grèce contre l'Empire Ottoman entre 1821 et 1829. L'Orient dont il s'agit est donc réduit à sa partie occidentale mais il est aussi plus large qu'on ne le pense aujourd'hui, puisque l'empire Ottoman englobait une partie de l'Europe orientale.

### 到達目標

Nous lirons les poèmes et les commenterons. L'explication portera à la fois sur l'arrière-plan historique du texte et sur ses procédés rhétoriques, la nature et l'ambiguïté de son imaginaire. Un soin particulier sera porté à l'explication des principes de la versification française.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Présentation générale.
第2回	Explication d'un poème.
第3回	Explication d'un poème.
第4回	Explication d'un poème.
第5回	Explication d'un poème.
第6回	Explication d'un poème.
第7回	Explication d'un poème.
第8回	Explication d'un poème.
第9回	Explication d'un poème.
第10回	Explication d'un poème.
第11回	Explication d'un poème.
第12回	Explication d'un poème.
第13回	Explication d'un poème.
第14回	Explication d'un poème.
第15回	Récapitulation du premier semestre.
第16回	Explication d'un poème.
第17回	Explication d'un poème.
第18回	Explication d'un poème.
第19回	Explication d'un poème.
第20回	Explication d'un poème.
第21回	Explication d'un poème.
第22回	Explication d'un poème.
第23回	Explication d'un poème.
第24回	Explication d'un poème.
第25回	Explication d'un poème.
第26回	Explication d'un poème.
第27回	Explication d'un poème.
第28回	Explication d'un poème.
第29回	Explication d'un poème.
第30回	Récapitulation générale.

### 授業計画コメント

Les poèmes étant parfois assez longs, une explication pourra déborder sur un ou plusieurs des cours suivants.

## 授業方法

Les cours auront lieu en présence.

## 使用言語

日本語・英語以外

## 準備学習(予習・復習)

Chaque poème étant défini à l'avance, les étudiants auront tout loisir, s'ils le souhaitent, d'en préparer le vocabulaire et de formuler des hypothèses sur la signification des phrases !

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	Exposés
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

A partir du second semestre, chaque étudiant devra se charger d'un exposé en français, devant ses camarades, au cours duquel il expliquera à son tour un poème ou un fragment de poème choisi dans une liste établie par mes soins.

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi qu'après ces exposés, je reprendrai moi-même l'explication afin de la compléter ou, éventuellement, d'en corriger certaines approximations.

## 教科書

Les Orientales: "Classique", Victor Hugo, Le Livre de poche, 2000, 978-2253160595

## 教科書コメント

J'indique cette édition pour que tous les étudiants puissent se référer aux mêmes pages d'un livre unique mais il va de soi que n'importe quelle édition me convient, pourvu qu'elle contienne le texte intégral de Victor Hugo.

## 履修上の注意

履修者数制限あり

第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	U360103106	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールF		
副題	作家たちの占領下 V		
英文科目名	Seminar		
担当者名	水野 雅司		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 中央-502.通年 金曜日 4時限 対面授業		

### 授業概要

昨年度に引き続き、占領下のフランスをテーマとした作品や当時の状況に関する証言等を取り上げ、当時の作家・芸術家・知識人たちが歴史的現実とどのように向き合っていたのか、あるいは後の世代がどのように向き合おうとしているのかを考察すると同時に、文学作品や映画などの芸術における〈歴史と記憶〉という問題にも目を向けたい。第1学期は、昨年度の第2学期に引き続き、ナタリー・サロート(Nathalie Sarraute)の『見知らぬ男の肖像(Portrait d'un inconnu)』を中心に進める。また随時、戦争に関わる映画の視聴およびそれを題材とした課題なども取り入れる予定。

### 到達目標

第二次世界大戦下のフランスに関する作品や文献に接することで、歴史的現実とそれに対する人間の表現活動のさまざまなあり方について理解を深め、自分なりの考えを持てるようになること、またそれを自分の言葉でまとめることができるようになることを目標とする。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction I : 第1学期の授業の進め方について等
第2回	テキスト訳読と解説(1)
第3回	テキスト訳読と解説(2)
第4回	テキスト訳読と解説(3)
第5回	サブテキスト・資料による演習と討議(1)
第6回	テキスト訳読と解説(4)
第7回	テキスト訳読と解説(5)
第8回	テキスト訳読と解説(6)
第9回	サブテキスト・資料による演習と討議(2)
第10回	テキスト訳読と解説(7)
第11回	テキスト訳読と解説(8)
第12回	テキスト訳読と解説(9)
第13回	テキスト訳読と解説(10)
第14回	サブテキスト・資料による演習と討議(3)
第15回	理解度の確認
第16回	Introduction II : 学期末試験の返却と解説、第2学期の授業の進め方、研究発表の準備について等
第17回	テキスト訳読と解説(11)
第18回	テキスト訳読と解説(12)
第19回	サブテキスト・資料による演習と討議(4)
第20回	テキスト訳読と解説(13)
第21回	テキスト訳読と解説(14)
第22回	研究発表と討議(1)
第23回	研究発表と討議(2)
第24回	研究発表と討議(3)
第25回	研究発表と討議(4)
第26回	研究発表と討議(5)
第27回	研究発表と討議(6)
第28回	研究発表と討議(7)
第29回	研究発表と討議(8)
第30回	研究発表と討議(まとめ)

### 授業計画コメント

占領下の生活や風俗を知るために、随時、映像や音声資料なども活用します。また研究発表の時期については、進度その他の都合上、多少前後する場合があります。

## 授業方法

- (1) 第1学期と第2学期の途中までは、テキストの熟読(演習形式)がメインです。担当者による訳文の発表とそれに対する教員の解説が中心になります。また、随時、サブテキストや音声・映像資料などをもとに参加者同士で討議したり、課題提出をしてもらう予定です。
- (2) 第2学期の後半は、各自の関心にもとづいてあらかじめ決めておいたテーマについて研究発表をもらい、発表後、参加者全員で討議します。研究発表は、授業内で行うのが原則ですが、授業内での討議の時間を確保するため、あらかじめ準備したものをオンデマンドで配信するという形式も採用する場合があります。
- (3) 学年末に研究発表での討議をもとに各自の研究結果をまとめたレポートを提出してもらいます。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

事前にテキストの該当箇所を読み、疑問点を明確しておくこと。研究発表のテーマが決定したら、授業と並行して、自主的に関連資料などに当たり、各自で準備しておく必要があります。指示された参考文献にも目を通しておくこと。(約1～2時間)

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	レポート等に代える場合もある。
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	学年末レポート。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	研究発表。討議への参加度など。
その他(備考欄を参照)	10 %	課題提出など。

## 成績評価コメント

上記はあくまでも目安です。学期末試験、第2学期の研究発表、学年末レポート、課題の成果および授業への参加度等を総合的に判断して評価します。また学期末試験に代えてレポート等の提出物を課す場合があります。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学期末試験、確認テスト、提出課題等は、採点后に授業内または Moodle で返却・解説します。

## 教科書

Portrait d'un inconnu: Folio, Nathalie Sarraute, Gallimard, 1977, 9782070369423

## 参考文献

ナチ占領下のフランス - 沈黙・抵抗・協力 - : 講談社選書メチエ, 渡辺和行, 講談社, 1994

ホロコーストのフランス, 渡辺和行, 人文書院, 1998

占領下パリの思想家たち - 収容所と亡命の時代: 平凡社新書, 桜井哲夫, 平凡社, 2007

## 参考文献コメント

その他、随時授業内で指示します。

## 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

## その他

質問や連絡などは Moodle のメッセージ機能にて受け付けます。

講義コード	U360103107	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールG		
英文科目名	Seminar		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 西2-505.通年 水曜日 2時限 対面授業		

### 授業概要

サミュエル・ベケット(1906-1989)の戯曲作品『オハイオ即興劇』他数篇を精読する。資料としては映像資料、関連作品の抜粋、研究書、論文などの抜粋を使用する。また、後期には夏季レポートをもとにした発表(グループ)も行う。

### 到達目標

フランス語で書かれた戯曲作品および学術的な文章を理解できるようになる。サミュエル・ベケット作品を通してフランス演劇の文化的背景を理解する。提示された作品について自ら問題提起をしてレポートを書き、それに基づいた口頭発表をすることができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション(1):1年間の予定など
第2回	ベケットおよび『オハイオ即興劇』について
第3回	テキスト(1) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第4回	テキスト(2) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第5回	テキスト(3) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第6回	テキスト(4) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説および映像資料鑑賞
第7回	テキスト(5) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第8回	テキスト(6) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第9回	テキスト(7) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第10回	テキスト(8) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第11回	テキスト(9) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第12回	テキスト(10) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第13回	テキスト(11) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説および映像資料鑑賞
第14回	テキスト(12) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第15回	第一学期のふりかえり
第16回	オリエンテーション(2) 第2学期の予定、発表についてなど。
第17回	テキスト(13) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第18回	テキスト(14) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第19回	発表:グループ1～3
第20回	発表:グループ4～6
第21回	卒論中間発表
第22回	テキスト(15) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第23回	テキスト(16) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第24回	テキスト(17) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第25回	テキスト(18) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第26回	テキスト(19) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第27回	テキスト(20) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説および映像資料鑑賞
第28回	テキスト(21) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第29回	テキスト(22) 訳読・質疑応答・教師による補足・解説
第30回	第二学期のふりかえり

### 授業計画コメント

上記の計画は目安であり、詳しいスケジュールは年度初めに伝える。また、特に第二学期の発表については各自の夏季レポートによりグループ分けをするため、正確なスケジュールはレポート提出後に決まる。

### 授業方法

演習

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

配布されたテキストの予習。また、関連作品を日本語で多読することを勧める。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	発表

## 成績評価コメント

上記の数字はあくまでも目安である。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートにはそれぞれコメントをつけて返却する。

## 教科書コメント

資料については授業開始時に指示する。

## 履修上の注意

履修者数制限あり

第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	U360103108	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールH		
副題	エルヴェ・ギベール『盲人たち』を読む		
英文科目名	Seminar		
担当者名	内藤 真奈		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 北1-301.通年 火曜日 3時限 対面授業		

### 授業概要

ジャーナリストでもあった作家エルヴェ・ギベールがパリの盲学校を取材して書いた小説『盲人たち Des aveugles』(1986)を読む。読解および関連テーマの考察を通して「見ること／見ないこと」について考える。

### 到達目標

フランス語の文章を文法や辞書を手がかりに読み解く能力を身につける。また、関連テーマを自らの芸術作品鑑賞体験との関わりにおいて理解し、考えを明確に表現できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、作家・作品の概要
第2回	作品テーマについて解説
第3回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (1)
第4回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (2)
第5回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (3)
第6回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (4)
第7回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (5)
第8回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (6)
第9回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (7)
第10回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (8)
第11回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (9)
第12回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (10)
第13回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (11)
第14回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (12)
第15回	前期のまとめ
第16回	前期末レポートの講評
第17回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (13)
第18回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (14)
第19回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (15)
第20回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (16)
第21回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (17)
第22回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (18)
第23回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (19)
第24回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (20)
第25回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (21)
第26回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (22)
第27回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (23)
第28回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (24)
第29回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (25)
第30回	一年のまとめ

### 授業計画コメント

上記の内容に加え、卒論、レポート等に関する発表を行う。スケジュールは授業時に指示する。

### 授業方法

#### 演習形式

学生が音読・訳読を行い、教員がそれにコメントや補足説明をつけるかたちで授業を進める。授業テーマに関するディスカッションを行う。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

予習: 授業で扱われる範囲の訳読発表を準備する。疑問点があれば授業で質問ができるよう明確にしておく(1時間半)。  
復習: 訳読準備の際に理解が不足していた文法事項について復習し、新たに得たボキャブラリーを定着させる(30分)。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

評価基準は目安であり、状況によっては変更する場合がある。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや発表に対して、適宜、コメントや講評を行う。

## 教科書

Des aveugles: Folio, Hervé Guibert, Gallimard, 1986, 9782070377251

## 参考文献コメント

参考文献、資料は授業時に指示する。

## 履修上の注意

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360106101	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習A		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	田上 竜也		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 水曜日 3時限 西1-301.通年 水曜日 3時限 対面授業		

### 授業概要

フランス世紀末文学を代表する作家のひとりヴィリエ・ド・リラダンの短編集『奇譚集』から、数篇選んで読みます。

### 到達目標

作品の正確な読解につとめるとともに、そこにこめられた風刺の意味合いや時代背景について理解を深めます。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト訳読
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	いままでの内容確認
第17回	テキスト訳読
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

### 授業方法

状況に応じ、対面演習ないしZoom 使用。事前に指示する。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

各自毎回数ページを読んでくること。とくに指定された箇所は正確な訳を心がけること。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):60%(出席、聴講態度重視) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴も含む)、無断退出(必要な場合には必ず申告すること)、メールなどは大きな減点対象となります。第2学期(学年末試験):20%(授業内容の確認) 第1学期(学期末試験):20%(授業内容の確認)

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期試験は返却する。後期試験は返却しないが質問には応じる。

### 教科書コメント

テキストはコピー配布

### 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360106102	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習B		
副題	フランス暗黒小説読解		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	中条 省平		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 木曜日 1時限 西2-305.通年 木曜日 1時限 対面授業		

### 授業概要

フランスの暗黒小説(探偵小説)の短篇を集めた『犯罪真髓』(ルブラン&メスプレード共編)を題材にして、小説読解の方法を学び、同時に、19~20世紀フランスの政治・社会状況および文学をめぐる思想について研究する。

### 到達目標

近代の探偵小説(ミステリー)の歴史と手法の概略を理解し、そのフランスにおける独自の展開と特性を把握し、フランスで一般的に人気のあるミステリーを原文で読めるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	序説:フランス暗黒小説の歴史
第2回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(1)
第3回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(2)
第4回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(3)
第5回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(4)
第6回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(5)
第7回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(6)
第8回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(7)
第9回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(8)
第10回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(9)
第11回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(10)
第12回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(11)
第13回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(12)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(13)
第17回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(14)
第18回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(15)
第19回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(16)
第20回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(17)
第21回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(18)
第22回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(19)
第23回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(20)
第24回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(21)
第25回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(22)
第26回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(23)
第27回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(24)
第28回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(25)
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

### 授業計画コメント

対面授業が基本である。  
ただし、コロナ禍の状況によって計画や内容が変化させられる可能性があることに留意されたい。

### 授業方法

演習形式による

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

徹底的に辞書を引きながら原書の5ページほどを読んでおくこと(約1時間)。

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

**成績評価コメント**

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30% 第2学期(学年末試験):70%

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

教室で直接説明する。

**教科書コメント**

第1回目の授業時に指示する。

**参考文献コメント**

M. Lebrun &amp; C. Mesplede : La Crème du crime (l'Atalante)

**履修上の注意**

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360106103	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習C		
副題	病気文学研究		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	内藤 真奈		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 金曜日 3時限 南1-304.通年 金曜日 3時限 対面授業		

### 授業概要

病気が登場する小説の抜粋を読みながら、それぞれの作品における病気表象がどのような意味を持ちうるのかを探る。

### 到達目標

フランス語を文法事項に即して正確に読解する。各作品の文化的・歴史的な背景を踏まえながら内容を理解したうえで、作品について自分の考えを明確に表現できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、関連テーマの概説
第2回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (1)
第3回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (2)
第4回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (3)
第5回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (4)
第6回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (5)
第7回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (6)
第8回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (7)
第9回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (8)
第10回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (9)
第11回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (10)
第12回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (11)
第13回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (12)
第14回	前期のまとめ
第15回	達成度確認
第16回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (13)
第17回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (14)
第18回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (15)
第19回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (16)
第20回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (17)
第21回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (18)
第22回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (19)
第23回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (20)
第24回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (21)
第25回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (22)
第26回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (23)
第27回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (24)
第28回	学生による音読・訳読 Q&A 教員による解説 (25)
第29回	後期のまとめ
第30回	達成度確認

### 授業方法

#### 演習形式

学生が音読・訳読を行い、教員がそれにコメントや補足説明をつけるかたちで授業を進める。授業テーマに関するディスカッションを行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

予習:授業で扱われる範囲の訳読発表を準備する。疑問点があれば授業で質問ができるよう明確にしておく(1時間半)。  
復習:訳読準備の際に理解が不足していた文法事項について復習し、新たに得たボキャブラリーを定着させる(30分)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

評価基準は目安であり、状況によっては変更する場合がある。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験答案、レポートなどは採点、コメントをつけて返却する。

### 教科書コメント

授業時に読むテキストを配布する。

### 参考文献コメント

授業時に都度指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360107101	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習A		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 北1-305.第1学期 金曜日 5時限 対面授業		

### 授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

### 到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	要約について学ぶ①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	要約について学ぶ②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	要約について学ぶ③
第9回	グループごとの発表①
第10回	要約について学ぶ④
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方①
第13回	レポートの書き方②
第14回	授業のまとめ①
第15回	授業のまとめ②

### 授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

### 授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

### 参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2  
 新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

### **履修上の注意**

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360107102	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習B		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西5-301.第1学期 金曜日 5時限 対面授業		

### 授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

### 到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	要約について学ぶ①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	要約について学ぶ②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	要約について学ぶ③
第9回	グループごとの発表①
第10回	要約について学ぶ④
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方①
第13回	レポートの書き方②
第14回	授業のまとめ①
第15回	授業のまとめ②

### 授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

### 授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

### 参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2  
 新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

### **履修上の注意**

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360107103	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習C		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	内藤 真奈		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 北1-406.第1学期 金曜日 5時限 対面授業		

### 授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

### 到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	要約について学ぶ①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	要約について学ぶ②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	要約について学ぶ③
第9回	グループごとの発表①
第10回	要約について学ぶ④
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方①
第13回	レポートの書き方②
第14回	授業のまとめ①
第15回	授業のまとめ②

### 授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

### 授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

### 参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2  
 新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

### **履修上の注意**

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360107104	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習D		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	土橋 友梨子		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西2-403.第1学期 金曜日 5時限 対面授業		

### 授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

### 到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	要約について学ぶ①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	要約について学ぶ②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	要約について学ぶ③
第9回	グループごとの発表①
第10回	要約について学ぶ④
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方①
第13回	レポートの書き方②
第14回	授業のまとめ①
第15回	授業のまとめ②

### 授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

### 授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

### 参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2  
 新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

### **履修上の注意**

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360200101	科目ナンバリング	036A201
講義名	フランス語圏文化入門(言語・翻訳)		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 南3-103.通年 火曜日 4時限 対面授業		

### 授業概要

フランス語は系統的にも文法構造上も日本語とは全く異なった言語である。にもかかわらず、ともに「頭(tête)」という語は、「人間の頭、くぎの頭、冒頭」を指すことができる。他方、フランス語には、複合過去、半過去、大過去、単純過去など、日本語には存在しない多くの過去を示す形態がある。この授業では、フランス語を日本語と比較対照させることで、ことばについて考え、言語学の第一歩となるような視点を養うことを目的とする。具体的には、新聞、小説などから実際に収集した例文を観察し、日本語と対照させることで、フランス語の語彙の使い方、またフランス語の人称、時制、法、態などの文法形式がどのように言語外現実を表現しているかを考察する。さらに、フランス語の歴史や21世紀におけるフランス語圏の現状についても考える。

### 到達目標

フランス語がなぜイタリア語やスペイン語と似ているのか理解できるようになる。フランス語の文法(複合過去と半過去の違い、部分冠詞とは?)について、より具体的に理解できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	フランス語圏の国々の現状(1)ヨーロッパ、カナダ、ルイジアナ
第3回	フランス語圏の国々の現状(2)アフリカ、南太平洋、カリブ海
第4回	様々な地域のフランス語
第5回	フランス語の歴史、変遷(1)ストラスブールの誓約
第6回	フランス語の歴史、変遷(2)中世
第7回	フランス語の歴史、変遷(3)近・現代
第8回	フランスにおける様々な地域語と海外領土
第9回	翻訳とは?
第10回	翻訳と借用語
第11回	固有名詞の翻訳
第12回	言葉遊び
第13回	なぞなぞ、ダジャレ
第14回	笑い話
第15回	授業の総括
第16回	レトリック
第17回	直喩・隠喩
第18回	換喩
第19回	仏語学的考察(1)疑問文
第20回	仏語学的考察(2)命令文
第21回	仏語学的考察(3)名詞の性
第22回	仏語学的考察(4)部分冠詞・不定冠詞
第23回	仏語学的考察(5)定冠詞
第24回	仏語学的考察(6)複合過去と半過去
第25回	仏語学的考察(7)大過去、単純過去、近接過去
第26回	仏語学的考察(8)単純未来と近接未来
第27回	仏語学的考察(9)受動態・代名動詞
第28回	誤用
第29回	新語法
第30回	授業の総括

### 授業方法

授業内容をスクリーンに映し出し、テーマに沿って講義をおこなう

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

フランス語の初級文法の教科書を復習しておくことが好ましい。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	課題提出
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

原則として、第1学期末と第2学期末にレポート提出を課す。また、毎回授業後に行う授業の復習を兼ねたコメントの提出、及び授業への参加、出席などの平常点も成績評価の対象とする。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回のコメントカードに書かれた質問については、次回の授業で答え、フィードバックを行う。

## 教科書コメント

必要に応じてプリントにて配布

## 参考文献

冠詞の謎を解く,小田涼,白水社,2019

中級フランス語 あらわす文法,東郷雄二,白水社,2011

Le bon usage,M.Grevisse,Duculot,2011

フランス語とはどういう言語か,大橋保夫,駿河台出版,1993

翻訳仏文法(上)(下),鷺見洋一,ちくま学芸文庫,2003

## 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

## その他

フランス語圏文化学科の2年生、またはフランス語既習の1年生のみ履修可能。他学科の学生は履修不可。フランス語未習の学生は履修を認めない。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

講義コード	U360201101	科目ナンバリング	036A202
講義名	フランス語圏文化入門(舞台・映像)		
副題	フランス語圏の舞台・映像史		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Theater & Films)		
担当者名	大原 宣久		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 1時限 西2-401.通年 金曜日 1時限 対面授業		

### 授業概要

前期は、フランス語圏の映画史のおおまかな流れ、映画表現の変遷をたどっていきます。その変遷をよりよく理解するために、古今の名作を題材に、映画作品にどのような主題が選ばれ、どのような技法が使われ、どのような要素が盛り込まれているか、そしてそれらはいかにして統合され、どのような意味を作品に与えているか等について、考察していきます。

後期は、フランスにおける演劇・舞踊(バレエ)・オペラといった舞台芸術史をたどります。各ジャンルごとに、時代順に代表的な作品を紹介していく予定です。また、これら舞台芸術が文学・美術・音楽といった諸芸術とともに進化・発展していった過程を見ていきたいと思えます。

以上に関しては、実際の授業では概論的な説明やテキスト(台本)のみに頼るのではなく、なるべく実際の映画や映像を見ながら実感・体験していけるようにしたいと思います。

### 到達目標

- 1、映画史(とくにフランス語圏の映画)の変遷をおおまかに理解できるようになる。
- 2、フランスの舞台芸術史の変遷をおおまかに理解できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション——映画誕生(リュミエール兄弟～ジョルジュ・メリエス)
第2回	ルネ・クレール『巴里の屋根の下』ほか
第3回	ジュリアン・デュヴィヴィエ『望郷』ほか
第4回	ジャン・ルノワール『大いなる幻影』
第5回	ジャン・ルノワール『ピクニック』
第6回	マルセル・カルネ『天井桟敷の人々』
第7回	マルセル・カルネ『天井桟敷の人々』(つづき)
第8回	ロベール・ブレッソン『抵抗(レジスタンス)』
第9回	フランソワ・トリュフォー『大人は判ってくれない』
第10回	ジャン＝リュック・ゴダール『勝手にしやがれ』
第11回	エリック・ロメール『海辺のポーリーヌ』
第12回	ジャック・ドゥミ『シェルブールの雨傘』
第13回	ジャン・ルノワール『フレンチ・カンカン』
第14回	理解度の確認
第15回	前期の振り返り
第16回	演劇『ドン・ジュアン』
第17回	オペラ『フィガロの結婚』
第18回	バレエ『ラ・シルフィード』
第19回	バレエ『ジゼル』
第20回	バレエ『 Coppélia 』
第21回	オペラ『椿姫』
第22回	オペラ『カルメン』
第23回	オペラ『カルメン』(つづき)
第24回	オペラ『マノン・レスコー』
第25回	演劇『カリギュラ』
第26回	演劇『カリギュラ』(つづき)
第27回	演劇『ゴドーを待ちながら』
第28回	演劇『ゴドーを待ちながら』(つづき)
第29回	理解度の確認

### 授業計画コメント

以上はあくまで予定ですので、受講者の理解度などを考慮のうえ、順序・内容等、変更する可能性があります。

### 授業方法

講義

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業内で取り上げた映画作品については、授業後に通して見ておくことが望ましい。紹介した文献についても、授業前後に読んでおくことが望ましい。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点は出席、およびリアクションペーパーの内容で評価します。  
なお、欠席・遅刻や授業中の私語・途中退席などが目立つ学生は減点するので注意すること。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーの内容については、検討に値するものは授業内で随時紹介し、考察・講評をおこなう。

### 参考文献

- フランス映画史の誘惑:集英社新書,中条省平,集英社,2003,9784087201796  
映画とは何か(上):岩波文庫,アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357811  
映画とは何か(下):岩波文庫,アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357828

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

履修できるのは、フランス語圏文化学科の1、2年生のみ。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

講義コード	U360202101	科目ナンバリング	036A203
講義名	フランス語圏文化入門(広域文化)		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	長井 文		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 北1-308.通年 水曜日 2時限 対面授業		

### 授業概要

19世紀末以降のフランスでは、近代化が一気に進み、現在のフランスの原形が形成された時期であると同時に、第1次世界大戦と第2次世界大戦というふたつの大きな戦争に翻弄された時代でもありました。

本講義では20世紀前半のフランスの歴史と文化を中心に、文学作品や映像資料を参照しつつ、フランスの歴史と文化の変遷をたどっていきます。

### 到達目標

- ・文学をはじめとする芸術を、社会との関わりの中で考えられるようになる。
- ・20世紀フランスの歴史と文化の変遷を理解する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	フランス革命後の歴史(1)
第3回	フランス革命後の歴史(2)
第4回	第3共和政下のフランス(1):社会
第5回	第3共和政下のフランス(2):パリ万博、アール・ヌーヴォー
第6回	第3共和政下のフランス(3):ジャポニスム、アフリカ美術、キュビズム
第7回	第3共和政下のフランス(4):文学と政治、ドレフェス事件
第8回	第3共和政下のフランス(5):未来派、アポリネール
第9回	第1次世界大戦とフランス(1):社会
第10回	第1次世界大戦と文学(2):バルビュス、ダダイズム
第11回	両大戦間のフランス(1):社会
第12回	両大戦間のフランス(2):シュルレアリスム運動
第13回	両大戦間のフランス(3):アール・デコ、植民地展、キャバレー文化
第14回	理解度の確認
第15回	ふりかえり
第16回	前期の復習および第2次世界大戦とフランス(1):第2次世界大戦前夜のフランス
第17回	第2次世界大戦とフランス(2):社会
第18回	第2次世界大戦とフランス(3):コラボ作家とレジスタンス作家(1)
第19回	第2次世界大戦とフランス(4):コラボ作家とレジスタンス作家(2)
第20回	第4共和政下のフランス(1):社会
第21回	第4共和政下のフランス(2):サルトルと戦後のフランス文学
第22回	第4共和政下のフランス(3):カミュ
第23回	第4共和政下のフランス(4):ヌーヴェル・ヴァーグ(映画)
第24回	第5共和政下のフランス(1):社会
第25回	第5共和政下のフランス(2):ド・ゴール
第26回	第5共和政下のフランス(3):女流作家の活躍(ボーヴォワール、サガン、デュラス)
第27回	第5共和政下のフランス(4):ヌーヴォーロマン
第28回	第5共和政下のフランス(5):構造主義
第29回	理解度の確認
第30回	ふりかえり

### 授業計画コメント

授業計画はあくまでも予定であり、授業の進行によっては変更となる場合があります。

### 授業方法

対面授業の場合は講義形式、遠隔授業の場合はZoomとLMSを使用して授業を行います。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

授業で紹介された文献を読んだり、映像資料を確認する(30～60分程度)。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	リアクションペーパー(クイズ)
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

レポートだけでなく、授業最後にリアクションペーパーを配布し、コメントを書いてもらったり、授業内容に関する簡単な質問に答えてもらいます。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内でコメントを行います。

## 教科書コメント

教師が用意した資料を使用します。原語がフランス語の資料を使用する際は、日本語訳を併記します。

## 参考文献

フランス史 下, 福井憲彦＝編, 山川出版社, 2021  
はじめて学ぶフランスの歴史と文化, 上垣豊＝編, ミネルヴァ書房, 2020  
教養のフランス近現代史, 杉本淑彦、竹中幸史＝編, ミネルヴァ書房, 2015  
フランス文化読本, 鈴木雅生＝編, 丸善出版, 2014  
フランス文学史, 田村毅、塩川徹也＝編, 東京大学出版会, 1995

## 参考文献コメント

上記以外の参考文献は授業内で適宜紹介します。

## 履修上の注意

第1回授業には必ず出席してください。

## その他

フランス語圏文化学科の1, 2年生のみ履修可。ただし、1, 2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認めません。

講義コード	U360203101	科目ナンバリング	036A204
講義名	フランス語圏文化入門(文学・思想)		
副題	フランス文学史を学ぼう		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	土橋 友梨子		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 中央-405.通年 火曜日 3時限 対面授業		

### 授業概要

中世から現代にいたるまでのフランス語圏の文学を学びます。

歴史や文化などの時代背景も学びつつ、毎回その時代の代表的な作品の抜粋を読んでいます。なかには読んだことはなくても、映画や舞台などを通して題名や内容を知っている作品もあるかもしれません。それらを比較して原作を読むこともきっと楽しいでしょう。

文学史の授業をきっかけに、フランス語圏の様々な作品に触れてほしいと思います。

### 到達目標

1. フランス語圏文学の豊かさと多様性に触れる。
2. フランス語圏文学のおおまかな全体像を把握する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:フランス文学について
第2回	中世(1):武勲詩、宮廷風騎士道
第3回	中世(2):物語、抒情詩
第4回	16世紀(1):ルネサンスの文学(ラブレー、モンテーニュ)
第5回	16世紀(2):ルネサンスの詩(クレマン・マロ、ピエール・ド・ロンサール、etc.)
第6回	17世紀(1):古典主義の文学1(デカルト、パスカル)
第7回	17世紀(2):古典主義の演劇(コルネイユ、ラシーヌ、モリエール)
第8回	17世紀(3):古典主義の文学2(ラ・フォンテーヌ、シャルル・ペロー)
第9回	中世～17世紀までのまとめ
第10回	18世紀(1):啓蒙の世紀
第11回	18世紀(2):思想家たち(モンテスキュー、デイドロ、ヴォルテール、ルソー)
第12回	18世紀(3):小説(アベ・プレヴォー、ラクロ、etc.)
第13回	18世紀(4):演劇(マリヴォー、ボーマルシェ)
第14回	18-19世紀:擬古典主義からロマン主義へ——ロマン主義の先駆者たち、スタール夫人、シャトーブリアン
第15回	総括
第16回	19世紀(1):ロマン主義(ユゴー、ネルヴァル)
第17回	19世紀(2):近代小説(スタンダール、バルザック、デュマ、メリメ)
第18回	19世紀(3):リアリズムから自然主義へ(フロベール、ゾラ、モーパッサン)
第19回	19世紀(4):詩(ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ)
第20回	19世紀(5):世紀末の小説(ヴェルヌ、ユイスマンス、リラダン)
第21回	19世紀のまとめ
第22回	20世紀前半(1):クローデル、ジッド、プルースト、ヴァレリー
第23回	20世紀前半(2):アポリネール、コクトー、ラディゲ、コレット
第24回	20世紀前半(3):シュルレアリスム(ブルトン)
第25回	20世紀前半(4):サン＝テグジュペリ、セリーヌ、バタイユ
第26回	20世紀後半(1):実存主義(サルトル、ボーヴォワール、カミュ)
第27回	20世紀後半(2):ジュネ、ヴィアン、サガン
第28回	20世紀後半(3):ヌーヴォー・ロマン
第29回	20世紀後半(4):デュラス、クレオール
第30回	総括

### 授業計画コメント

授業計画はあくまで目安ですので、授業の進度、受講者の興味に応じて内容や順序を変更することがあります。

## 授業方法

講義形式で行います。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

予習:配布したテキストを事前に読み、自分なりの興味を見つけて授業に臨んでください(60分)。

復習:授業で学んだ作家の作品を図書館で探したり、実際に読んで自分の興味を探ってみる。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	前後期レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	リアクションペーパー
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

レポートだけでなく、毎回のリアクションペーパーを重要視します。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーに書かれた疑問や意見に関して、各回の授業の冒頭で回答、コメントします。

## 参考文献

フランス文学史,田村毅・塩川徹也編,東京大学出版会,1995

新版 フランス文学史,饗庭孝男ほか編,白水社,1992

はじめて学ぶフランス文学史,横山安由美・朝比奈美知子編著,ミネルヴァ書房,2002

増補 フランス文学案内:岩波文庫,渡辺一夫・鈴木力衛編,岩波書店,1990

フランス文学の楽しみかた,永井敦子編著,ミネルヴァ書房,2021

## 履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

## その他

フランス語圏文化学科の1、2年生のみ履修可。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

講義コード	U360204101	科目ナンバリング	036A301
講義名	フランス語圏文化講義(言語・翻訳)		
副題	エミール・バンヴェニストと学ぶ言語学の歩み		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	小野 文		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 2時限 西1-310.通年 火曜日 2時限 対面授業		

### 授業概要

本講義では、20世紀フランスが生んだ最大の言語学者といわれるエミール・バンヴェニスト(1902-1976)の言語学を通して、言語学の基礎的な概念や言語学の歴史の一端に触れようとするものである。彼の主著の一つであるProblèmes de linguistique générale, I (邦訳『一般言語学の諸問題』)の中から、後の言語研究のみならず文学理論・思想哲学等に影響を与えた重要な論考を選び、フランス語の原文と日本語の翻訳を用いながら、また参考文献を示しつつ、解説する。また講義では、バンヴェニストの論考から出発して言語学の領域や歴史を紹介する入門的要素も持つ。講義の後で、履修者はそれぞれ自分が重要だと思った点、また疑問点・批判点等を小グループ内で話し合う。

### 到達目標

学生はバンヴェニスト言語学の論考を通して、フランスの構造主義とポスト構造主義を率いた20世紀言語学の大まかな概観、そして言語学の複数の領域の概観を掴むことができる。また言語学の基本的な文献を部分的にフランス語で読む力を養うだけでなく、批判的な意識を持って読み、そこから議論できるようになることを目指す。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション1／初回アンケート
第2回	“Tendances récentes en linguistique générale” (1) 近代言語学の成立
第3回	“Tendances récentes en linguistique générale” (2) 近代言語学の成立
第4回	“Saussure après un demi-siècle” (1) ソシユール言語学
第5回	“Saussure après un demi-siècle” (2) ソシユール言語学
第6回	“Nature du signe linguistique” (1) 恣意性について
第7回	“Nature du signe linguistique” (2) 恣意性について
第8回	中間レポート提出／振り返り
第9回	“Communication animale et langage humain” (1) 人間言語の特性
第10回	“Communication animale et langage humain” (2) 人間言語の特性
第11回	“Structure des relations de personne dans le verbe” (1) 人称構造について
第12回	“Structure des relations de personne dans le verbe” (2) 人称構造について
第13回	“Actif et moyen dans le verbe” (1) 中動態の問題
第14回	“Actif et moyen dans le verbe” (2) 中動態の問題
第15回	理解度の確認／振り返り
第16回	イントロダクション2
第17回	“Les relations du temps dans le verbe français” (1) 時制と語り
第18回	“Les relations du temps dans le verbe français” (2) 時制と語り
第19回	“Remarques sur la fonction du langage dans la découverte freudienne” (1) 言語と無意識
第20回	“Remarques sur la fonction du langage dans la découverte freudienne” (2) 言語と無意識
第21回	“De la subjectivité dans le langage” (1) ことばと主体の関係
第22回	“De la subjectivité dans le langage” (2) ことばと主体の関係
第23回	中間レポート提出／振り返り
第24回	“La philosophie analytique et le langage” (1) 言語行為論
第25回	“La philosophie analytique et le langage” (2) 言語行為論
第26回	“Catégorie de pensée et catégorie de langue” (1) 言語と思考の関係
第27回	“Catégorie de pensée et catégorie de langue” (2) 言語と思考の関係
第28回	“«Être»et «avoir»dans leurs fonctions linguistiques” (1) be動詞とhave動詞
第29回	“«Être»et «avoir»dans leurs fonctions linguistiques” (2) be動詞とhave動詞
第30回	理解度の確認／振り返り

### 授業計画コメント

各回の講義内容は、受講者数や授業形態、また初回アンケートの結果に応じて、順序や扱う論考、それに費やす時間数を変更す

る可能性がある。

### 授業方法

講義とグループディスカッション(+発表)。ただしやむを得ず遠隔授業になる場合は、オンデマンドとリアルタイムを組み合わせて行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

各論考に関する講義に入る前に、少なくとも日本語訳に目を通し、できればフランス語の原文にも触れること。また言語学用語を辞書で調べてくること(1~2時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	4回/年、提出する
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題提出も含む
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点(出席、グループディスカッション参加、課題提出)に関しては、授業を理解するだけでなく、それをグループでシェアして議論するという点が重要である。またレポートに関しては、半期に2回(通年で計4回)、「それまでの授業のまとめと感想」(中間)、「言語学関連のブックレビュー」(上半期・下半期の期末)を課す予定である。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題に関しては、次の授業回や理解度の確認/振り返りの際にフィードバックを行う。

### 教科書

Problèmes de linguistique générale,Émile Benveniste,Gallimard,1966,9782070293384

一般言語学の諸問題,エミール・バンヴェニスト,みすず書房,新装,2022,978-4-622-09518-7

### 教科書コメント

2は1の抄訳である。授業で扱う論考に関しては、部分的にコピー(PDF)を配布する。

### 参考文献コメント

参考文献は、毎回の授業内で提示する。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

### その他

バンヴェニストの言語学は、フランス語だけでなく、ひろく「ことば」全般に関わる現象を扱っています。「ことば」に関心のある学生を待っています。質問等は、基本的に授業前後に受け付けます。

講義コード	U360205101	科目ナンバリング	036A302
講義名	フランス語圏文化講義(舞台・映像)		
副題	フランス映画概説		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	中条 省平		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 1時限 中央-401.通年 月曜日 1時限 対面授業		

### 授業概要

リュミエール兄弟による映画の発明から現代まで、フランス映画の歴史をたどる。受講者はフランス語ができるという利点があるので、フランス語の文献を活用して授業内容の深化を図る。

### 到達目標

単にフランス映画の歴史的概観を体得するのみならず、映画とは何か、表象芸術とは何かという根源的な問題についても思考する哲学的、歴史的基礎を身につけてもらいたい。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	リュミエール兄弟
第2回	ジョルジュ・メリエス
第3回	パテとゴーモン
第4回	フィルム・ダール
第5回	マックス・ランデル
第6回	エミール・コール
第7回	アリス・ギイ
第8回	ルイ・フィヤード
第9回	アベル・ガンズ
第10回	アヴァンギャルド映画
第11回	詩的リアリズム
第12回	ルネ・クレール
第13回	ジャック・プレヴェール
第14回	理解度の確認
第15回	総括
第16回	ジャン・ヴィゴ
第17回	ジャン・ルノワール
第18回	マルセル・カルネ
第19回	ジャック・ベッケル
第20回	ジャン=ピエール・メルヴィル
第21回	ロベール・ブレッソン
第22回	ジャック・タチ
第23回	ジャン・コクトー
第24回	アレクサンドル・アストリュック
第25回	クロード・シャブロール
第26回	フランソワ・トリュフォー
第27回	ジャン=リュック・ゴダール
第28回	エリック・ロメール
第29回	理解度の確認
第30回	総括

### 授業計画コメント

対面授業を基本とする。  
ただし、コロナ禍の状況によって、計画や内容が変化させられる可能性がある。

### 授業方法

講義形式による

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

授業中に言及された映画作家、スタッフ、映画作品、映画専門用語などについて、各種辞書や百科事典、映画事典などを丹念に引きながら確認し、理解を深めること。また、授業中に配布され解説されたフランス語文献を復習して、自分でもきちんと意味が分かるようにしておくこと(約1時間半)。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	80 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

## 教科書コメント

中条省平『フランス映画史の誘惑』(集英社新書)

## 参考文献コメント

教室で直接指示する。

## 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360206101	科目ナンバリング	036A303
講義名	フランス語圏文化講義(広域文化)		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	寺家村 博		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 1時限 中央-507.通年 木曜日 1時限 対面授業		

### 授業概要

このクラスでは1年を通してフランス語圏という概念がもつ意味、そしてフランス語圏の国や地域の中で何かを表現するというのがどのような意味を持ちうるのかを探っていきます。具体的には西ヨーロッパ、北米、アフリカなどに点在するフランス語圏の国や地域(フランスを含む)の現状を理解するとともにそれぞれの文化的特徴をテキストの訳読、さらにグループワーク、個人あるいはグループ発表を通して探っていきます。そして最終的に受講学生がフランス語圏を通してフランスをあらたに捉え直すという新しい視座を獲得することを目指します。

### 到達目標

フランスを内からだけではなく、外からも同時に理解する視点を持つことができる。フランス語圏の国々の社会、文化、言語政策などに関する知識を得ることができる。さまざまなタイプのフランス語の文章を翻訳する機会ともなる。またフランスを含むフランス語圏の社会的事象に関してグループで考え、その考えをまとめていくことで「社会」について受講生それぞれが自分の捉え方を持てるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	第1学期オリエンテーション
第2回	現在のフランスの多文化社会を端的に表しているDVDを観る
第3回	前回のDVDに関して、与えられたテーマに即してグループワークをする
第4回	仏文のプリント1 フランコフォニーの概観を確認する
第5回	プリント2 西ヨーロッパのフランス語圏を概観する
第6回	プリント3 アフリカ、カリブ海、アジアのフランス語圏を概観する
第7回	プリント4 北米のフランス語圏を概観する
第8回	プリント5 フランス語圏においてフランス語で書かれた様々な文学作品に触れる
第9回	プリント6 フランス語圏においてフランス語で書かれた様々な文学作品に触れる
第10回	グループワーク1 フランス語圏の社会的な事象に関して
第11回	グループワーク2 フランスの社会的な事象に関して(PACS)
第12回	グループワーク3 フランスの社会的な事象に関して(アイデンティティー)
第13回	グループワーク4 フランスの社会的な事象に関して(教育)
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り
第16回	第2学期オリエンテーション
第17回	グループワークまたは個人発表(ベルギー)
第18回	グループワークまたは個人発表(スイス)
第19回	グループワークまたは個人発表(ルクセンブルク、イタリア)
第20回	グループワークまたは個人発表(モロッコ、チュニジア)
第21回	グループワークまたは個人発表(アルジェリア)
第22回	グループワークまたは個人発表(カナダ)
第23回	グループワークまたは個人発表(カナダ・ケベック州)
第24回	グループワークまたは個人発表(カナダ・アカディア地方、米国ルイジアナ州)
第25回	グループワークまたは個人発表(旧インドシナ三カ国)
第26回	グループワークまたは個人発表(カリブ海諸国)
第27回	グループワークまたは個人発表(マダガスカル、ニューカレドニア)
第28回	発表の質問に答える
第29回	理解度の確認
第30回	振り返り

### 授業計画コメント

各回の授業テーマは受講者数、授業形態によって、必ずしも上記記載通りに完全に実施できるとは限らない。

## 授業方法

原則演習形式で実施していく。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

次回の授業のために配布したプリントや与えられたテーマに関して予め予習しておくこと(約1時間)  
個人やグループ発表の際にでた質問等に関してはよく調べて、次回にフィードバックすること(約45分程度)

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

グループワークや個人発表は重要な評価のポイントとなります。また同時に与えられた課題を的確にこなしていくことも大切になってきます。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題を提出後、解説をして理解度を深める。

## 教科書コメント

プリントは授業時に配布するか、Web上にアップする。

## 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席してください

## その他

連絡は対面時かWeb上でおこないます。

講義コード	U360207101	科目ナンバリング	036A304
講義名	フランス語圏文化講義(文学・思想)		
副題	フランス文化と「ユダヤ人」		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	鈴木 重周		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 西1-301.通年 木曜日 2時限 対面授業		

### 授業概要

この授業は、ヨーロッパ社会におけるマイノリティ(社会的少数者)としての「ユダヤ人」に着目し、かれらがどのような存在であったのかを、フランスを中心としたヨーロッパの芸術作品(文学、絵画、戯曲等)を通して考えることを目的とします。「ユダヤ人」について考えることは、歴史上常に周縁に追いやられてきた存在をめぐる差別の構造に気づくことでもあります。また、「ユダヤ人」が芸術作品の担い手となった時にどのような軋轢が起こったのかを学ぶことで、現代の日本に生きる私たちにとってもさまざまなマイノリティ(女性、性的少数者等)をめぐる問題が無関係ではないことを知ることができます。

### 到達目標

- ・ヨーロッパの「ユダヤ人」をめぐる歴史に関する基本的知識を身に付ける。
- ・文化表象におけるマイノリティをめぐる差別の構造を理解する。
- ・授業内容を自身の問題意識に引きつけコメントすることができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	「ユダヤ人」とは誰のことか
第3回	描かれる「ユダヤ人」:シェイクスピア『ヴェニスの商人』の影響
第4回	描かれる「ユダヤ人」:シェイクスピア『ヴェニスの商人』の影響
第5回	1492年と異端審問
第6回	1492年と異端審問
第7回	描かれる「美しきユダヤ女」:W・スコット『アイヴァンホー』
第8回	描かれる「美しきユダヤ女」:W・スコット『アイヴァンホー』
第9回	「ユダヤの王女」サロメ:フロベール、モロー、ワイルド、ビアズリー
第10回	「ユダヤの王女」サロメ:フロベール、モロー、ワイルド、ビアズリー
第11回	「ユダヤの王女」サロメ:フロベール、モロー、ワイルド、ビアズリー
第12回	具現化する「ユダヤ女」:サラ・ベルナールと「美しき時代」
第13回	具現化する「ユダヤ女」:サラ・ベルナールと「美しき時代」
第14回	理解度の確認
第15回	前期のまとめ
第16回	世紀末という時代:ゾラ、ユイスマンス
第17回	世紀末という時代:ゾラ、ユイスマンス
第18回	ベル・エポックの影:ドレフュス事件とフランス反ユダヤ主義
第19回	ベル・エポックの影:ドレフュス事件とフランス反ユダヤ主義
第20回	ドレフュス事件をいかに描くか:M・シュウオブ『少年十字軍』
第21回	ドレフュス事件をいかに描くか:M・シュウオブ『少年十字軍』
第22回	戦争の時代とユダヤ人芸術たち
第23回	戦争の時代とユダヤ人芸術たち
第24回	「ハーフのユダヤ女」:C・カーアン
第25回	「ハーフのユダヤ女」:C・カーアン
第26回	ユダヤというルーツをめぐる物語
第27回	ユダヤというルーツをめぐる物語
第28回	フランス文化と「ユダヤ人」
第29回	理解度の確認
第30回	まとめ

### 授業計画コメント

受講者の関心やアクチュアリティに応じて授業内容を変更や修正することがあります。

## 授業方法

対面で行います。基本的にはスライドを用いた講義ですが、できるかぎり受講者の皆さんとの対話形式で授業を進める予定です。随時レスポンスペーパー(200~400字程度)をLMSから提出してもらいます。必ず自筆ノートをとるようにしてください。理解度試験では自筆ノート(自分で書いたもの、コピペや切り貼り等不可)の持ち込みを可とする予定です。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

授業の配布資料に目を通し自筆ノートにまとめる。1時間程度。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	レスポンスペーパー

## 成績評価コメント

理由のない遅刻や欠席、居眠り、その他の授業に関係のない行為は減点の対象となります。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業開始時に前回授業についての受講者からのレスポンスペーパーにコメントする時間を設けます。

## 参考文献

はじめて学ぶフランス文学史,横山安由美ほか,ミネルヴァ書房,2002,9784623034909  
フランス文学の楽しみかた,永井敦子ほか,ミネルヴァ書房,2021,9784623090761  
篠沢フランス文学講義1-5,篠沢秀夫,大修館書店,1979,9784469250169  
新しく学ぶフランス史,平野千果子,ミネルヴァ書房,2019,9784623085989  
ユダヤとは何か,市川裕ほか,CCCメディアハウス,2012,9784484122380

## 参考文献コメント

購入の必要はありませんが、授業理解に役立ちますので書店や図書館で手に取ってみてください。他の文献に関しては授業内で随時紹介します。

## 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

## その他

この授業で学ぶことが受講者自身の真摯な問題意識とつながることを期待しています。フランス語圏文化学科の講義ですが、テーマに関心のある学生であればどなたでも歓迎します。

講義コード	U360208101	科目ナンバリング	036A401
講義名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)A		
副題	フランス語圏の文学を訳す 17世紀から現代まで		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	岡部 杏子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 4時限 西2-406.通年 月曜日 4時限 対面授業		

### 授業概要

17世紀から現代までのフランス語圏の文学作品を訳読します。  
各回で扱う作品の作者、文芸批評、関連する映像作品も適宜紹介し、フランス語圏の歴史、文化についても考察します。  
また、日本語訳のある作品については、複数の既訳を比較し、翻訳の方法論についても考えてゆきます。

### 到達目標

- フランス語圏の文学作品の訳読をつうじて、
- 1) 2年次、3年次までに学んだ文法の知識を定着させ、運用する力を身につけること
  - 2) 文法の知識に基づき、適切に翻訳する力を養うこと
  - 3) 作品の読解をつうじて、フランス語圏の歴史や文化についての知識を深めること

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	ロジェ・グルニエ『レオノール』
第3回	ナタリー・サロート『つまらぬことで』
第4回	アントワーヌ・レリス『ぼくは君たちを憎まない』
第5回	エリック＝エマニュエル・シュミット『ノアの子』
第6回	ジャック・プレヴェール『家族のうた』
第7回	ジュール・シュペルヴィエル『人さらい』
第8回	パトリック・モディアノ『血統書』
第9回	フランソワ・ド・ラ・ロシュフーコー『箴言集』
第10回	ジュール・シュペルヴィエル「すなおさ」
第11回	ユベール・マンガレリ『終わりの雪』
第12回	アルチュール・ランボー「夜明け」
第13回	ギョーム・アポリネール「オレンジード」
第14回	前期のまとめ
第15回	到達度の確認
第16回	アラン・フルニエ『グラン・モーヌ』[1]
第17回	アラン・フルニエ『グラン・モーヌ』[2]
第18回	オノレ・ド・バルザック『砂漠の情熱』
第19回	イレヌ・ネミロフスキー『舞踏会』
第20回	ジョルジュ・サンド『花たちのおしゃべり』[1]
第21回	ジョルジュ・サンド『花たちのおしゃべり』[2]
第22回	シャルル・ボードレール「窓」「スープと雲」
第23回	フランシス・ポンジュ「水について」[1]
第24回	フランシス・ポンジュ「水について」[2]
第25回	ジョルジュ・ペレック『消滅』[1]
第26回	ジョルジュ・ペレック『消滅』[2]
第27回	ミシェル・ビュートル「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール『ダイヤのエースを持ついかさま師』」[1]
第28回	ミシェル・ビュートル「ジョルジュ・ド・ラ・トゥール『ダイヤのエースを持ついかさま師』」[2]
第29回	後期のまとめ
第30回	到達度の確認

### 授業計画コメント

受講者の理解度を見ながら進めてゆきます。各回の内容が前後する場合があります。  
教科書を終えたら、教員が別途資料を配布します。

## 授業方法

対面でおこないます。  
受講者が作った訳文と、文法事項の説明を発表してもらったのち、教員が解説をおこないます。  
訳文の検討をする際には、ディスカッションを取り入れる予定です。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

予習:指定されたテキストを日本語に訳しておくこと、指定されたテキスト内の文法事項の要点を、文法書などで調べておくこと、教科書付属の音声聞き、発音練習をしておくこと(2時間程度)

復習:作成した訳文の修正、授業で扱った文法事項の要点をノートにまとめておくこと、教科書付属の音声聞き、正しい発音を身につけているか確認しておくこと(2時間程度)

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

正しい発音で音読できること  
文法事項を理解した上で日本語に訳していること  
訳文を検討する際のディスカッションに積極的に参加していること

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内で課題の解説をおこないます。

## 教科書

ことばの色 中級からのフランス文学読本,杉本圭子、福田桃子、岡部杏子,朝日出版社,2010,978-4-255-35312-8

## 参考文献

新フランス文法事典,朝倉季雄、木下光一,白水社,2002,978-4560000373  
フランス語ハンドブック,新倉俊一ほか,白水社,改訂,1996,978-4560002308  
仏文和訳の実際,倉田清,大修館書店,1977,978-4469250145  
翻訳仏文法 上:ちくま学芸文庫,鷺見洋一,筑摩書房,2003,978-4480087911  
翻訳仏文法 下:ちくま学芸文庫,鷺見洋一,筑摩書房,2003,978-4480087928

## 参考文献コメント

授業内でも適宜紹介します。

## 履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

仏和辞典(中辞典以上の収録語彙数の辞書)を必ず持参してください。  
1年次、2年次に使用した教科書、文法書も適宜持参して、すぐに参照できるようにすることが望ましいです。  
また、仏仏辞典、国語辞典、類語辞典なども必要に応じて持参し、語彙力を高めるよう心がけてください。

## その他

指定されたテキストを訳してから授業に臨んでください。  
授業内でその場で訳すことのないようにしてください。

質問は、対面の場合は授業後に受け付けます。  
オンラインの場合は、授業前後にLMSで受け付けます。

講義コード	U360208102	科目ナンバリング	036A401
講義名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)B		
副題	翻訳入門		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	横川 晶子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 南1-202.通年 火曜日 5時限 対面授業		

### 授業概要

フランス語を日本語に翻訳するための知識と能力を習得するために、第1学期の授業では平易で短い文章を多く訳し、翻訳に関する基礎的な事柄を学習する。第2学期の授業では、フランスで実際に読まれている文章の日本語訳に取り組み、翻訳の実践を試みる。フランス語圏の最新の文化事情を反映するテキストの読解を通じて、フランス語圏のアクチュアリティにも触れる。また翻訳研究に関して知っておくべき研究倫理についても学ぶ。

### 到達目標

フランス語と日本語の言語としての本質的な相違点を理解し、高度な読解と論述の能力、翻訳に必要な知識と実践的な技術を身につける。また、単なる仏文和訳と翻訳はどう違うのか、良い訳文とはどのようなものか、文章の性格や目的によって訳がどう変わるのかなどを認識できるようになる。さらに、フランス語圏のテキスト読解を通じて国際的な視野を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容及び授業の進め方についての説明
第2回	人称代名詞
第3回	固有名詞
第4回	前置詞(句)
第5回	接続詞(句)
第6回	関係代名詞
第7回	時制
第8回	会話体の文章
第9回	説明の文章
第10回	日記
第11回	手紙もしくはメールの文章
第12回	平易な小説(1) 文体
第13回	平易な小説(2) 描写
第14回	理解度の確認とまとめ
第15回	到達度確認
第16回	第1学期レポートについて確認及び解説
第17回	料理のレシピ(1) 語彙
第18回	料理のレシピ(2) 文体
第19回	新聞・雑誌等の文章(1) 文体
第20回	新聞・雑誌等の文章(2) 表記
第21回	新聞・雑誌等の文章(3) 固有名詞
第22回	字幕作成(1) 字幕制作の方法
第23回	字幕作成(2) 字幕制作の注意点
第24回	字幕作成(3) 実践
第25回	現代小説(1) 文体
第26回	現代小説(2) 人称及び時制
第27回	現代小説(3) 描写及び叙述
第28回	現代小説(4) 意識について
第29回	理解度の確認とまとめ
第30回	到達度確認

### 授業方法

授業内容に沿ったフランス語のテキストを毎回配布し、訳の担当者を決めます。担当者は次の授業の前に訳文を作成して提出しま

す。次の授業では講師がテキストについて説明をおこない、提出された訳文を検討するとともに、担当者や授業参加者の意見やコメントを求めます。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

課題の訳を担当する学生は締切日までに訳文を作成して提出してください。担当でない学生も事前に訳文の作成を試みてください。(1時間～2時間)

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

試験は実施せず、平常点(授業内の課題による訳文提出)及びレポート(学期末に実施)により総合的に評価します。テキストの内容を正確に把握し、不明点を調査し、的確な日本語で訳文を作成しているかどうかを評価のポイントとします。また、指定された期日内に訳文を提出することも重視します。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

平常の課題については毎回の授業で解説を行いコメントをします。第1学期のレポートについては、第2学期の初回授業で解説コメントを伝えます。

## 教科書コメント

毎回の授業でプリントを配布します。

## 参考文献コメント

必要に応じて教室で指示します。

## 履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修希望者が25名を超えた場合、初回の授業において以下の優先順位で受講できる学生を決めます。

1. 「卒業翻訳」を選択した4年生。
2. 「言語・翻訳」コース所属の4年生。
3. 「言語・翻訳」コース所属で、「卒業研究(卒業論文・卒業翻訳)」を予定している3年次の学生。
4. その他の3、4年生。

※履修希望者が25名を超えた場合、4の中で抽選を行う。

## その他

課題の訳文をLMSにより提出してもらおうのでPC環境を整えておいて下さい。個別の連絡はメールで対応します。

講義コード	U3602081Z1	科目ナンバリング	036A401
講義名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		
副題	Production écrite		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	DERIBLE, Alberic Dany Ser		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 2時限 仏文院生室.通年 火曜日 2時限 対面授業		

### 授業概要

Chaque séance de cours se déroulera en trois temps. Les étudiants mèneront tout d'abord une analyse des caractéristiques d'un genre particulier d'écrit et s'exerceront ensuite à manipuler les outils linguistiques qui lui sont spécifiques. Dans un troisième et dernier temps, ils produiront, avec l'aide de l'enseignant et sur le modèle du texte analysé en première partie, un exemple de cet écrit. Seront abordés au cours du semestre divers média tels que : la presse, la littérature et la correspondance.

### 到達目標

Se familiariser avec les différents genres d'écrit. Analyser les structures spécifiques à chaque type et s'y conformer lors de la production, tant au niveau de la forme (vocabulaire thématique et structures grammaticales) que dans le fond (les actes de parole exprimés). Les étudiants s'essaieront ainsi aux techniques de l'écriture journalistique, littéraire et de la correspondance.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	L'ARTICLE DE PRESSE
第2回	Présentation des concepts opératoires pour l'analyse de texte
第3回	Le texte argumentatif
第4回	Les connecteurs logiques
第5回	La structure d'un article de presse
第6回	Le courrier des lecteurs
第7回	L'expression de l'opinion, le subjonctif
第8回	Un article pour le journal de l'université
第9回	Répondre à un éditorial, faire un commentaire sur un sujet d'actualité
第10回	Évaluation 1, Production écrite : donner son opinion sur un forum en ligne
第11回	LE ROMAN
第12回	Le synopsis
第13回	Les caractéristiques du roman
第14回	L'incipit
第15回	La concordance des temps
第16回	L'extrait de roman
第17回	Le passé simple
第18回	Le discours rapporté
第19回	Les règles de la ponctuation française
第20回	Évaluation 2 : présenter son roman préféré (synopsis et opinion)
第21回	LES AUTRES GENRES D'ECRIT (LE RECIT AUTOBIOGRAPHIQUE, LA LETTRE, LE MAIL)
第22回	Le souvenir
第23回	Le journal de bord, le récit d'aventure
第24回	L'imparfait et le passé composé
第25回	Les formules de politesse de début et de fin de correspondance
第26回	Le mail : accepter l'invitation d'un(e) ami(e), demander des informations sur une sortie
第27回	La requête indirecte, les faux amis (français-anglais)
第28回	Inviter, refuser une invitation, s'excuser ou se justifier
第29回	La correspondance officielle : formules consacrées
第30回	Évaluation 3 : donner son opinion sur une exposition dans un mail de remerciement d'invitation à un vernissage

### 授業方法

Les classes se dérouleront en présentiel. Après une première partie consacrée à l'analyse des différents types de texte, les étudiants seront guidés dans leur production personnelle d'un type particulier d'écrit.

## 使用言語

日本語・英語以外

## 準備学習(予習・復習)

Aucune préparation préalable n'est attendue des étudiants suivant ce cours, seules l'assiduité et la participation en classe sont obligatoires.

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	90 %	3 évaluations par semestre de cours
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	Assiduité et participation en classe
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

L'évaluation portera principalement sur la production individuelle de trois types d'écrit : un texte argumentatif sur un sujet de société, le résumé et l'analyse littéraire et la correspondance officielle.

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

L'enseignant donnera un feed-back général sur les productions écrites des étudiants à chaque séance et donnera des conseils individuels selon les besoins et les problèmes de chacun.

## 教科書コメント

Aucun manuel ne sera utilisé dans cette classe. L'enseignant fournira pour chaque séance une fiche de travail idoine.

## 履修上の注意

履修者数制限あり／第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	U3602081Z2	科目ナンバリング	036A401
講義名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		
副題	発話行為について考える		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 西1-315.通年 火曜日 3時限 対面授業		

### 授業概要

フランス語で書かれた言語学関連の短い文章または論文を読むことで、書き言葉のフランス語に慣れると同時に、言語学の第一歩となるような視点を養う。今年度は、フランス語の誤用、語用論的な視点から挨拶、依頼など日常を取り巻く言語の考察を深めたい。また女性の社会進出に伴う職業名詞の新たな女性形、男女の差別、差異をなくすために試みられている包括書法についても、折を見て取り上げたいと考えている。学部と大学院の乗り合わせの授業なので、参加者の興味やレベルに応じて臨機応変に対応する予定である。

### 到達目標

書き言葉のフランス語に慣れること、フランス語らしいフランス語が書けるようになること、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	日常を取り巻く言語について(1)
第3回	日常を取り巻く言語について(2)
第4回	日常を取り巻く言語について(3)
第5回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(1)
第6回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(2)
第7回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(3)
第8回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(4)
第9回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(5)
第10回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(6)
第11回	発表(1)
第12回	発表(2)
第13回	発表(3)
第14回	授業の総括(1)
第15回	授業の総括(2)
第16回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(1)
第17回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(2)
第18回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(1)
第19回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(2)
第20回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(3)
第21回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(4)
第22回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(5)
第23回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(6)
第24回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(7)
第25回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(8)
第26回	発表(1)
第27回	発表(2)
第28回	発表(3)
第29回	授業の総括(1)
第30回	授業の総括(2)

### 授業方法

フランス語についての文章を読み、理解を深めながら議論していく演習方式

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

担当箇所を調べるだけでなく、全体を読んで内容を理解しておくこと。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートについては、コメント、返却する。

## 教科書コメント

授業で講読するテキストは、授業中に指示する。

## 参考文献

Quand dire, c'est faire, J.L. Austin, Éditions du Seuil, 1970

Les actes de langage dans le discours, C. Kerbrat-Orecchioni, Armand Colin, 2008

Le français correct pour les nuls, First Grund, 2011

Le ministre est enceinte. ou la grande querelle de la féminisation des noms, B. Cerquiglini, Seuil, 2019

La féminisation de la langue en français et en allemand, D. Elmiger, Honoré Champion, 2008

## 参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

## 履修上の注意

履修者数制限あり

第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	U360209101	科目ナンバリング	036A402
講義名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)A		
副題	映画批評を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	須藤 健太郎		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 西1-103.通年 金曜日 4時限 対面授業		

### 授業概要

映画批評家セルジュ・ダネーの『映画日誌』をフランス語で講読します。『映画日誌』は哲学者ジル・ドゥルーズが序文を寄せたダネーの主著で、1981年から1986年にかけて日々『リベラシオン』紙に書いた膨大な量の記事を自身が厳選して編んだ批評集です。本年度は、前期は1981年、後期は1982年からいくつか映画評やメディア批評を選んで読んでみたいと思います。

### 到達目標

①ジャーナリスティックなフランス語を読む力をつける。②視聴覚メディアに対するリテラシーを高める。③優れた映画批評の読解を通して、映画について思考する力を養う。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	フランソワ・トリュフォー『隣の女』評(1)
第3回	フランソワ・トリュフォー『隣の女』評(2)
第4回	フランソワ・トリュフォー『隣の女』評(3)
第5回	ジャン・ユスターシュ追悼(1)
第6回	ジャン・ユスターシュ追悼(2)
第7回	ジャン・ユスターシュ追悼(3)
第8回	アンドレイ・タルコフスキー『ストーカー』評(1)
第9回	アンドレイ・タルコフスキー『ストーカー』評(2)
第10回	アンドレイ・タルコフスキー『ストーカー』評(3)
第11回	ジスカールデスタン大統領の退任式について(1)
第12回	ジスカールデスタン大統領の退任式について(2)
第13回	ミッテラン大統領の就任式について(1)
第14回	ミッテラン大統領の就任式について(2)
第15回	総括
第16回	ガイダンス
第17回	セルゲイ・パラジャーノフ『ざくろの色』評(1)
第18回	セルゲイ・パラジャーノフ『ざくろの色』評(2)
第19回	セルゲイ・パラジャーノフ『ざくろの色』評(3)
第20回	ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー『ヴェロニカ・フォスのあこがれ』評(1)
第21回	ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー『ヴェロニカ・フォスのあこがれ』評(2)
第22回	ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー『ヴェロニカ・フォスのあこがれ』評(3)
第23回	フランシス・フォード・ Coppola『ワン・フロム・ザ・ハート』評(1)
第24回	フランシス・フォード・ Coppola『ワン・フロム・ザ・ハート』評(2)
第25回	フランシス・フォード・ Coppola『ワン・フロム・ザ・ハート』評(3)
第26回	映画とテレビの比較考察(1)
第27回	映画とテレビの比較考察(2)
第28回	映画とテレビの比較考察(3)
第29回	映画とテレビの比較考察(4)
第30回	総括

### 授業計画コメント

受講者の関心や理解度によって、授業内容に変化が生じる可能性もある。

### 授業方法

対面の場合: 演習形式(教員が受講者の訳文を講評し、補足説明を行う)。  
遠隔の場合: Web会議ツールを使用した同時配信型を採用し、対面授業と同様の進行方法をとる。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

課題箇所の訳文作成、およびそこで論じられている映画作品の鑑賞など背景知識に関する調査。

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

授業内で行う。

**教科書コメント**

必要に応じて適宜配布する。

**参考文献コメント**

必要に応じて適宜指示する。

**履修上の注意**

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360209102	科目ナンバリング	036A402
講義名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)B		
副題	舞台から考える舞台芸術史～現代演劇からオペラ・バロックまで～		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	横山 義志		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 北1-306.通年 金曜日 3時限 対面授業		

### 授業概要

フランス(語圏)の演劇やオペラは今の私たちにとってどのような意味をもつのでしょうか。フランスで教育を受けた方にとっては演劇やオペラは比較的身近なものですが、日本で暮らしていると、あまり接する機会がないかもしれません。この授業では、劇場や映像で今年度上演予定のフランス現代演劇(太陽劇団『金夢島』他)やオペラ・バロック(『レ・ボレアード』)などを鑑賞し、作品づくりに携わる方々にお話をうかがいながらフランス(語圏)の舞台芸術史を学び、日本にいる私たちがそれに触れる意味を考えていきます。フランス語圏舞台芸術史に関わる題材であれば、参加者からの提案も歓迎です。講師はフランスを中心とした西洋演劇史をパリで学び、研究をつづけつつ、劇場や演劇祭で働いています。すでに演劇史や舞台芸術の現場に興味がある方はもちろん、まだ触れたことがないという方の参加も歓迎いたします。

### 到達目標

- ・資料を正確に理解し、実際の作品との関係について考えられるようになること。
- ・正確な知見に基づき、説得力のある発表を行えるようになること。
- ・参加者にとって有益な形でディスカッションに参加し、ファシリテーションをする能力を身につけること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	フランス現代演劇関連発表
第3回	フランス現代演劇関連発表
第4回	フランス現代演劇関連ゲストトーク
第5回	アヴィニョン演劇祭関連発表
第6回	アヴィニョン演劇祭関連ゲストトーク
第7回	アヴィニョン演劇祭関連発表
第8回	アヴィニョン演劇祭関連発表
第9回	オペラ・バロック関連発表
第10回	オペラ・バロック関連ゲストトーク
第11回	オペラ・バロック映像鑑賞
第12回	オペラ・バロック映像鑑賞
第13回	アヴィニョン演劇祭2023について
第14回	太陽劇団関連発表
第15回	まとめ
第16回	太陽劇団関連ゲストトーク
第17回	太陽劇団関連発表
第18回	太陽劇団関連発表
第19回	太陽劇団関連ゲストトーク
第20回	太陽劇団関連発表
第21回	太陽劇団観劇
第22回	太陽劇団観劇
第23回	ディスカッション
第24回	オペラ・バロック関連ゲストトーク
第25回	オペラ・バロック関連発表
第26回	オペラ・バロック関連発表
第27回	観劇
第28回	観劇
第29回	ディスカッション
第30回	まとめ

## 授業計画コメント

参加者からの提案、ゲストの都合や講師の出張(海外招聘担当のため海外出張もあります)等により、授業の内容や日程が変更になる可能性があります。

## 授業方法

基本的には対面授業・演習形式ですが、zoom等を使って遠隔からゲストトーク等を行う可能性もあります。参加者はグループに分かれ、作品にまつわるテーマで発表していただきます(質疑応答のファシリテーションも参加者をお願いします)。  
ゲストをお招きする際には事前に参加者から質問を募集し、ゲストにお伺いしていきます。  
フランス語話者やフランス語資料に触れる機会も多くなりそうですので、参加者のモチベーションや理解度に応じて、授業の一部をフランス語で行うかもしれません。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

毎回30分～1時間程度、資料を読んでディスカッションの準備をしてきていただく必要があります。発表時などには数時間の準備を想定してください。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	学期末・学年末レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	授業への参加・ファシリテーター
その他(備考欄を参照)	30 %	発表

## 成績評価コメント

成績評価コメント:

0) 授業への参加度(年間で評価):10%

1) 1学期ごとにファシリテーター1回程度、年間2回程度:5%×2=10% 評価基準:議論を進めることに貢献しているか

2) 1学期末に小レポート:20% 評価基準:授業の理解度、選んだ主題の興味深さ、説得力

3) 発表:30% 評価基準:議論の説得力、内容や資料の扱い方の適切さ

4) 2学期末にレポート:30% 評価基準:授業の理解度、選んだ主題の興味深さ、説得力

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表やレポートについては、主に授業中にフィードバックをしていきます。

## 参考文献コメント

オリエンテーション時に参加者の希望も聞いて、資料を確認します。

## 履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。

第一回目の授業に必ず出席すること。

観劇あるいは映像鑑賞も行う予定です。

テーマやスケジュールは現時点で把握できている公演予定等にもとづいていますが、参加者からの提案やゲストの都合等、状況に応じて変更の可能性がありますのでご了承ください。

講義コード	U3602091Z1	科目ナンバリング	036A402
講義名	◇フランス語圏文化演習(舞台・映像)		
副題	Aspects de la scene francophone		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	DE VOS, Patrick		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 仏文院生室.通年 木曜日 4時限 対面授業		

### 授業概要

この授業では、フランス又はフランス語圏で1950年代以降の舞台芸術作品を扱う予定ですが、その枠でも古典的なレパートリーの戯曲を考察することにもつながる。演劇、又ダンスと言ったジャンルを問わず、可能な限り映像で確認できる各舞台作品に関して、その特徴を紹介し、歴史的、美学的背景を考慮しながら、作品の意義を考えていきます。通史的なアプローチをとらず、代表的とも言える作品の分析を、学生さん達と共に試みたいと思います。

### 到達目標

フランス文化圏における舞台芸術という大きな宇宙を垣間見ることから、文章だけではなく動画によって目と耳で確かめられる具体的な例を通じて、そのうちの幾つかの重要な傾向、問題、作家の仕事、フランス演劇の基礎的なレパートリーへの理解を深めます。また、断片でも原語で戯曲や批評文を読むこともあり、授業の主な使用言語になるフランス語の理解も深められると思います。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション。授業の内容や方法の説明。
第2回	共同体の歴史を語り直す太陽劇団の『1789』。
第3回	モリエールという国民的神話を捉え直す太陽劇団の『Molière』。
第4回	太陽劇団の『タルチュフ』の意義と舞台作りのメソッド。
第5回	モリエールの『Don Juan』を読む、その1。
第6回	モリエールの『Don Juan』を読む、その2。
第7回	名演出家、名優Louis Jouvetの『Don Juan』。
第8回	演出を語る演出。Brigitte Jaquesの『Elvire/Jouvet』。
第9回	『Elvire/Jouvet』、その2。
第10回	演技という、演劇を変革する核心。
第11回	モリエール以降の俳優と俳優論。
第12回	Diderotの『Paradoxe sur le comédien』の意義。
第13回	演出家Antoine Vitezによるモリエール。
第14回	演出家を追い払った劇団Tg Stanによるモリエール。
第15回	まとめ。
第16回	演技する身体を解体したニジンスキ。
第17回	ニジンスキの『牧神』。
第18回	ニジンスキによる『春の祭典』。
第19回	JarryからArtaudへ、演者の受難。
第20回	人形を目指すパフォーマー。Artaudの『Sur le théâtre balinais』。
第21回	パフォーマンスと観客が問う身体。Xavier Leroyの『Self portrait unfinished』。
第22回	パフォーマンスと観客が問う身体。Jérôme Belの場合。
第23回	人形に身体を奪われるパフォーマー。Giselle Vienneの『Jerk』。
第24回	ドキュメンタリ演劇のパーспекティヴ。
第25回	ドキュメンタリ演劇におけるMilo Rauの仕事。
第26回	ドキュメンタリ演劇におけるMilo Rauの仕事、その2。
第27回	いわゆるポストコロニアル状況の舞台。
第28回	学生による発表。
第29回	学生による発表。
第30回	まとめ。

### 授業計画コメント

履修者の関心やその人数によって以上のスケジュールで扱う項目の順番や内容などの多少の変更の可能性もあります。

## 授業方法

基本的に対面で、フランス語を主な使用語として授業を進めていきます。演習なので、学生さん達の積極的な参加が要求されます(口頭かメールで、毎回の内容について指摘、質問などを届けていただきます)。

## 使用言語

日本語・英語以外

## 準備学習(予習・復習)

取り扱う作品によって、そのもとになる戯曲や関連のある批評、演劇論などを読んでいただき、順番で発表という形でその内容を授業で伝えてもらうことがあります。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

この授業は、学部生・院生が履修できますが、大学院生はより高度な学修と成果が求められます。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表やレポートに対するコメントをします。

## 参考文献

演劇学の教科書,クリスティアン・ピエ、クリストフ・トリオー,国書刊行会,2009

演劇学のキーワード,藤井慎太郎他,ぺりかん社,2007

## 履修上の注意

演習のため、学生の積極的な参加が期待されます。  
履修者制限あり/第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	U360210101	科目ナンバリング	036A403
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)A		
副題	20世紀フランス詩の多様な形: 視覚詩、音声詩、パフォーマンス詩		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	進藤 久乃		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 西2-205.通年 木曜日 3時限 対面授業		

### 授業概要

20世紀は、「前衛(アヴァンギャルド)」と呼ばれる芸術家や芸術運動が数多く生まれた時代である。彼らは革新性を追求するのみならず、作品の概念や受容の形態に大きな変化をもたらした。既成の芸術ジャンルを越境し、国際的な広がりを持つことも前衛の作品の特徴である。本演習では、20世紀以降、前衛を名乗った(あるいは前衛とみなされる)詩人がフランス語で制作した詩作品の中で、従来の芸術ジャンルを越境するものを扱う。前期はベル・エポック期からダダイズムを経てシュルレアリスムまでの詩作品(カリグラム詩、詩人と芸術家のコラボレーション作品、コラーージュ詩、ポエム・オブジェなど)を読解する。後期は、これまであまり紹介されることのなかった1950年以降の詩人たちの作品を扱う。具体的には、視覚詩(モーリス・ルメートル、クリスチャン・ドートルモン、ピエール・ガルニエ)、音声詩(イジドル・イズー、フランソワ・デュプレーヌ、ベルナール・ハイツィック)、パフォーマンス詩(ジュリアン・ブレース)などから履修者と相談の上、ジャンルごとにいくつか作品を選んで読解を進める。フランス語のテキストを確実に読解した上で、視覚的・音声的要素との関わりを確認し、ジャンルを越境する詩作品をいかにして分析することができるかを考察する。

### 到達目標

- ・時代背景や文学史的知識を踏まえながら、20世紀フランスの前衛文学・芸術について知識を深める。
- ・伝統的な芸術ジャンルを越境する作品を読解し、分析方法を考え、レポートを作成することができる。

### 授業内容

実施回	内容
-----	----

- |      |                 |
|------|-----------------|
| 第1回  | ガイダンス           |
| 第2回  | ギョーム・アポリネール     |
| 第3回  | ギョーム・アポリネール     |
| 第4回  | ブレーズ・サンドラール     |
| 第5回  | ブレーズ・サンドラール     |
| 第6回  | 『SIC』誌の詩人たち     |
| 第7回  | 『SIC』誌の詩人たち     |
| 第8回  | ダダイズム           |
| 第9回  | ダダイズム           |
| 第10回 | ダダイズム           |
| 第11回 | シュルレアリスム        |
| 第12回 | シュルレアリスム        |
| 第13回 | シュルレアリスム        |
| 第14回 | 理解度の確認          |
| 第15回 | 到達度の確認          |
| 第16回 | 20世紀後半以降の前衛について |
| 第17回 | 音声詩の詩人たち        |
| 第18回 | 音声詩の詩人たち        |
| 第19回 | 音声詩の詩人たち        |
| 第20回 | 音声詩の詩人たち        |
| 第21回 | 視覚詩の詩人たち        |
| 第22回 | 視覚詩の詩人たち        |
| 第23回 | 視覚詩の詩人たち        |
| 第24回 | 視覚詩の詩人たち        |
| 第25回 | 視覚詩の詩人たち        |
| 第26回 | パフォーマンス詩の詩人たち   |
| 第27回 | パフォーマンス詩の詩人たち   |
| 第28回 | パフォーマンス詩の詩人たち   |
| 第29回 | 理解度の確認          |
| 第30回 | 到達度の確認          |

## 授業計画コメント

上記の予定は目安であり、履修者の興味や関心に応じて計画を変更することがある。

## 授業方法

演習形式で進める。履修者の積極的な参加を求める。必ず予習をしてくること。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

予習: 次回の授業で扱うテキストを、辞書をひきながら読んでくる。(約1時間)

復習: 授業中のノートを見直し、興味のある事項については紹介した参考文献を読んでみる。(約1時間)

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	学期末と学年末にレポートを課す
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	授業への積極的な参加及び発表
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

- ・フランス語テキストを丁寧に読解しているか。
- ・積極的に議論に参加しているか。
- ・文学テキストを分析し、レポート執筆のルールに従って文章を作成することができるか。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

履修者の発表には簡単な講評を行い、授業に反映させる。

## 教科書コメント

プリントを配布する。

## 参考文献

詩とイメージ—マラルメ以降のテキストとイメージ, シモン＝及川, マリアンヌ(編), 水声社, 2015, 9784801001015

Poésie ready-made, Gaëlle Théval, L'Harmattan, 2015, 9782343069449

## 参考文献コメント

参考文献については、授業内で紹介する。

## 履修上の注意

履修者制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360210102	科目ナンバリング	036A403
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)B		
副題	都市と文学		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	彦江 智弘		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 中央-507.通年 金曜日 2時限 対面授業		

### 授業概要

私たちの生活の物理的環境として無視し難い広がりを持つものに都市がある。実際、私たちにとって身近な東京という都市も日々その姿を変え、私たちの生活の舞台となるだけでなく、私たちの生の様々な側面に影響を及ぼしている。このような都市はいかに成立し、いかなる問題を抱え、どのような成長を遂げてきたのだろうか？ その一方で、文学や芸術はこのような都市という環境とはたしてどのような関係を取り結んできたのだろうか？ 文学作品や芸術作品の多くが人間社会を対象としている以上、都市がそこに姿を表さないことはむしろ稀であり、ある意味、都市は文学や芸術にとって重要なテーマを構成してきた。実際、文学作品や芸術作品は都市を舞台背景として取り入れるという以上に、都市の変化やそこに暮らす人間たちの営みや感性の揺らぎを観察し、都市という現象を考察する装置としても発展してきた。とりわけフランス文学においては第2帝政期に推進されたオスマン男爵によるパリ改造の有り様を散文詩で捉えたボードレールを始めとして、ランボーやゾラなど文学を通じた都市の考察を可能にする重要なテキストが多く存在している。

本授業では、第1学期では主に19世紀から20世紀初頭にかけてのフランスの都市の発展を辿る。これはフランスの都市ということでは、近代都市が成立し、オスマンによるパリ改造を経て、ル・コルビュジエに代表されるモダニズムの建築・都市計画が隆興する時代である。第2学期では、第1学期での学び様々な都市論を取り上げ、都市を考える際の足がかりとなるような視点を築き、ここから文学作品や芸術作品における都市という問題にアプローチしていく予定。

### 到達目標

主にフランスの都市の歴史と関連する様々な都市論を学ぶことで都市についての基礎的な観点を涵養し、都市を考察するための基礎的な分析力を身につけることができる。  
文学作品を都市という観点から読み解くスキルを習得し、現実の都市に潜む様々な問題点を考察し、都市について他者と議論ができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	都市とは何か？
第3回	フランス近代都市の発展
第4回	19世紀以前のフランスの都市
第5回	オスマンのパリ改造
第6回	19世紀の建築
第7回	都市と民衆
第8回	パリ・コミューンと都市
第9回	ユートピア思想の発展
第10回	社会住宅の誕生
第11回	郊外の変容
第12回	都市のインフラ
第13回	都市計画の発展
第14回	モダニズムの都市論
第15回	まとめ
第16回	イントロダクション
第17回	問題としての都市
第18回	都市と資本主義
第19回	都市と排除
第20回	都市と権力
第21回	都市と日常実践
第22回	バルザックと都市
第23回	ボードレールと都市
第24回	ゾラと都市
第25回	ランボーと都市
第26回	19世紀美術と都市
第27回	ナダールと都市
第28回	郊外と文学

第29回 20世紀前半の文学における都市

第30回 まとめ

### 授業計画コメント

授業の進捗状況、参加者の関心に応じて適宜授業内容を変更することがあります。

### 授業方法

参加者の発表を起点とする討論形式を中心に、適宜講義を交えて授業を進めます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業前に指定された資料を読み込み、これまでの授業内容との関連に注意しながら議論の際のコメント等をまとめておく(1~2時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習形式の授業のため授業内でフィードバックを行う。

### 参考文献

パリの肖像：19-20世紀、ベルトラン・マルシャン、日本経済評論社、2010、9784818820944

パリ：モダニティの首都、デヴィッド・ハーヴェイ、青土社、2017、9784791769872

反乱する都市：資本のアーバンイゼーションと都市の再創造、デヴィッド・ハーヴェイ、作品社、2013、9784861824203

都市が壊れるとき：郊外の危機に対応できるのはどのような政治か、ジャック・ドンズロ、人文書院、2012、9784409230480

安全・領土・人口：コレージュ・ド・フランス講義1977-1978年度、ミシェル・フーコー、筑摩書房、2007、9784480790477

### 参考文献コメント

上記以外は適宜授業で指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること。

### その他

演習形式の授業のため、参加者は資料作りや適切な発表の進め方、また討論における建設的なコメントの作法を実践的に身につけるといふ観点から積極的な態度で授業に臨むことが求められます。

講義コード	U360211101	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)A		
副題	スタンダール『パルムの僧院』を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	上杉 誠		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 2時限 南1-201.通年 月曜日 2時限 対面授業		

### 授業概要

フランス文学の名作とされる長篇小説『パルムの僧院』を一年かけてじっくり読む授業です。名場面の抜粋をフランス語で読みます。フランス革命後の北イタリアを舞台にした物語を通して、ナポレオン、戦争、宮廷政治、恋愛、嫉妬、オペラ座、殺し合い、暗殺、教会、牢獄、脱獄…といった、魅力溢れるさまざまな主題を読み解きましょう。第1学期は第1部、第2学期は第2部を扱う予定です。

### 到達目標

フランス語で文学作品を読解する。  
フランス文学のさまざまな主題への理解を深める。  
文学作品を分析する手法を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
-----	----

第1回	イントロダクション
第2回	抜粋1(1)
第3回	抜粋1(2)
第4回	抜粋2(1)
第5回	抜粋2(2)
第6回	抜粋3(1)
第7回	抜粋3(2)
第8回	抜粋4(1)
第9回	抜粋4(2)
第10回	抜粋5(1)
第11回	抜粋5(2)
第12回	抜粋6(1)
第13回	抜粋6(2)
第14回	映像資料
第15回	春学期のまとめ
第16回	ふり返りとイントロダクション
第17回	抜粋7(1)
第18回	抜粋7(2)
第19回	抜粋8(1)
第20回	抜粋8(2)
第21回	抜粋9(1)
第22回	抜粋9(2)
第23回	抜粋10(1)
第24回	抜粋10(2)
第25回	抜粋11(1)
第26回	抜粋11(2)
第27回	抜粋12(1)
第28回	抜粋12(2)
第29回	映像資料
第30回	秋学期のまとめ

### 授業方法

対面授業(演習)。今後の大学の方針によっては、遠隔授業(同時配信、Zoom)になる可能性がある。

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

各回で扱う予定の抜粋の予習、復習をおこなう。

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	15 %	
学年末試験(第2学期)	15 %	
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

**成績評価コメント**

授業内での担当、発表を重視します。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

授業内でフィードバックをおこないます。

**教科書**

La Chartreuse de Parme, Stendhal, Flammarion, 2018, 9782081433632

**履修上の注意**

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360211102	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)B		
副題	愛を歌う詩人たち		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	中山 慎太郎		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 西1-212.通年 木曜日 3時限 対面授業		

### 授業概要

詩は愛を歌い、愛はフランス詩をはなやかに彩ってきました。普遍的であると同時に個別的な出来事でもある愛は詩の格好の題材であり、身近なものでありながらもつかみがない愛を歌う詩は多くの読者を魅了し続けています。本授業は、「愛の恍惚と不安」、「失われた恋(大切なひとの死、失恋)」を歌った詩を通して、様々な「愛」のかたちを読み解いていきます。詩人たちがどのような言葉で愛の情景を綴ってきたのかを分析することで、フランス詩への理解を深め、文化事象としての「愛」の歴史性について学びます。

### 到達目標

1. 詩作品に活用されている韻律、音の効果、レトリックを分析し、その独自性を図ることができる。
2. 他の文学作品(他ジャンルも含む)や文化事象を参照しながら、詩作品について論じることができる。
3. 「愛」というテーマからフランス詩の歴史を理解する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス 「愛の詩」序論
第2回	詩の読み方1: syllabe(音綴)の数え方とcésure(句切り)について。
第3回	詩の読み方2: 韻(rime)について。様々なレトリックや音の効果の説明。定型詩の紹介。
第4回	詩の読み方3: 韻律分析の実践
第5回	詩の読み方4: 韻律分析の実践
第6回	「愛の恍惚と不安」: ルイーズ・ラベ
第7回	「愛の恍惚と不安」: モーリス・セーヴ
第8回	「愛の恍惚と不安」: ピエール・ド・ロンサール
第9回	「愛の恍惚と不安」: シャルル・ボードレール(1)
第10回	「愛の恍惚と不安」: シャルル・ボードレール(2)
第11回	「愛の恍惚と不安」: ポール・ヴェルレーヌ(1)
第12回	「愛の恍惚と不安」: ポール・ヴェルレーヌ(2)
第13回	「愛の恍惚と不安」: ルイ・アラゴン(1)
第14回	「愛の恍惚と不安」: ルイ・アラゴン(2)
第15回	まとめ
第16回	韻律分析の復習。「失われた愛」序章
第17回	「失われた愛」: ヴィクトル・ユゴー(1)
第18回	「失われた愛」: ヴィクトル・ユゴー(2)
第19回	「失われた愛」: ステファヌ・マラルメ(1)
第20回	「失われた愛」: ステファヌ・マラルメ(2)
第21回	「失われた愛」: アンリ・ミショー(1)
第22回	「失われた愛」: アンリ・ミショー(2)
第23回	「失われた愛」: ミシェル・ドゥギー(1)
第24回	「失われた愛」: ミシェル・ドゥギー(2)
第25回	「失われた愛」: ポール・ヴェルレーヌ(1)
第26回	「失われた愛」: ポール・ヴェルレーヌ(2)
第27回	「失われた愛」: ギョーム・アポリネール(1)
第28回	「失われた愛」: ギョーム・アポリネール(2)
第29回	「失われた愛」: シャンソンを読む
第30回	まとめ

### 授業計画コメント

授業の詳細は初回の授業で指示します。  
授業計画はあくまで目安ですので、読む作品は受講者の興味にあわせて変更します。

## 授業方法

演習形式。

講師の解説だけでなく、受講者の輪読と発表、及びディスカッションによって授業を進めていきます。発表に関してはグループ発表を取り入れる場合もあります。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

訳読や発表の担当者以外も配布資料の必要部分をすべて読み、自分なりの解釈を準備しておくこと。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	発表も含む
その他(備考欄を参照)		

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

口頭発表の際にコメントをします。また、レポートについては希望者にコメントをします。

## 教科書コメント

プリント配布

## 参考文献コメント

授業内に指示します。

## 履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

## その他

正確にフランス語を読めてさえいれば、解釈に「正解」、「不正解」はありません。とくに「名作」として残っている詩は多様な解釈が出来る場合が多いので、ぜひ、皆さんがどのように読んだのか聞かせてください。  
また、詩を読んでいると「何を言っているのか分からない」箇所も出てくと思いますが、それは、文化も時代も違うものなので当たり前のことです。授業では「分からない」ことが「分かる」ようになる楽しさと、「分からない」ことについてじっくり考え、皆で話し合う楽しみを感じてほしいと思います。

講義コード	U360211103	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)C		
副題	ユゴーの戯曲を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	中野 芳彦		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 1時限 西1-201.通年 金曜日 1時限 対面授業		

### 授業概要

ヴィクトル・ユゴー(1802-1885)と言えば、その長編小説『ノートル=ダム・ド・パリ』(1831)や『レ・ミゼラブル』(1862)の名前とともに記憶している人は多いでしょう。しかし実際には(同時代のほかの何人かの作家と同じように)、この「小説家」は詩・戯曲・評論・政治パンフレットなど、あらゆるジャンルで執筆活動を行ないました。とくに、ユゴーがロマン主義文学のリーダーと見なされる契機となったのは戯曲『エルナニ』(1830)の上演を通してです。詩や小説の発表と並行して40歳ごろまで精力的に芝居の執筆をつづけた事実はともすれば軽視されがちですが、本授業ではそうした戯曲作家としてのユゴーに光を当てます。まずは戯曲『クロムウエル』の序文を部分的に読解してユゴーの文学観を把握したあと、1832年に発表された戯曲『王は楽しむ』(ヴェルディのオペラ『リゴレット』の原作でもあります)を輪読し、ロマン主義文学の特色とその背景について理解を深めます。この作品を読了したあとは、ユゴーの他の演劇テキストにも読解の対象を広げていきましょう。

### 到達目標

フランス語で書かれたテキストを読解し、その内容を把握することができる。テキストの背景にあるフランス19世紀の文学思潮について正確な知識を持つことができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション／ユゴーについて
第2回	『クロムウエル』序文に見るユゴーの文学観(1)
第3回	『クロムウエル』序文に見るユゴーの文学観(2)
第4回	『王は楽しむ』の訳読・全体討議
第5回	『王は楽しむ』の訳読・全体討議
第6回	『王は楽しむ』の訳読・全体討議
第7回	『王は楽しむ』の訳読・全体討議
第8回	『王は楽しむ』の訳読・全体討議
第9回	『王は楽しむ』の訳読・全体討議
第10回	『王は楽しむ』の訳読・全体討議
第11回	『王は楽しむ』の訳読・全体討議
第12回	『王は楽しむ』の訳読・全体討議
第13回	『王は楽しむ』の訳読・全体討議
第14回	オペラ『リゴレット』について
第15回	前期のまとめ
第16回	前期の復習
第17回	『エルナニ』とロマン主義文学(1)
第18回	『エルナニ』とロマン主義文学(2)
第19回	『マリオン・ド・ロルム』の訳読・全体討議
第20回	『マリオン・ド・ロルム』の訳読・全体討議
第21回	『マリオン・ド・ロルム』の訳読・全体討議
第22回	『マリオン・ド・ロルム』の訳読・全体討議
第23回	『マリオン・ド・ロルム』の訳読・全体討議
第24回	『マリオン・ド・ロルム』の訳読・全体討議
第25回	『マリオン・ド・ロルム』の訳読・全体討議
第26回	『マリオン・ド・ロルム』の訳読・全体討議
第27回	『マリオン・ド・ロルム』の訳読・全体討議
第28回	『マリオン・ド・ロルム』の訳読・全体討議
第29回	まとめ
第30回	達成度の確認

## 授業計画コメント

上記の授業日程はあくまで目安となります。『王は楽しむ』読了後のテキストは、履修者との相談によって変更の可能性があります。

## 授業方法

対面授業: 演習

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

各回の予習・復習には90分程度の学習が必要になります。とくに訳読の担当者(発表者)については、120分程度の準備時間が想定されます。担当者以外も、授業で扱う範囲についてはあらかじめテキストを読解しておいてください。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

レポートは学期ごとに1~2回提出してもらうことを予定しています。議論への参加度や発表内容が、平常点として評価の対象となります。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、コメントを付して返却する。

## 教科書

Théâtre : Hernani, Le Roi s'amuse, Amy Robsart, Marion de Lorme, Victor Hugo, Flammarion, 1999, 978-2080703194

## 参考文献

クロムウェル・序文／エルナニ 他: ユゴー文学館 第10巻, ヴィクトル・ユゴー, 潮出版社, 2001, 978-4267015700

エルナニ: 岩波文庫, ヴィクトル・ユゴー, 岩波書店, 2009, 978-4003253267

## 履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U3602111Z1	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	文学批評理論研究		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 仏文院生室.通年 金曜日 4時限 対面授業		

### 授業概要

文学とは何か。文学テキストをどのように読めばいいのか。この問いに対して、特に20世紀以降、さまざまな批評家たちがそれぞれの文学理論を展開してきた。この授業では、主に文学批評理論テキストのアンソロジー『Littérature : 150 textes théoriques et critiques』を抜粋で読みながら、文学テキストへの多様なアプローチ方法を学んでいきたい。

### 到達目標

フランスにおける文学批評理論の諸相を理解するとともに、文学テキストの「感想」を述べるのではなく、理論を道具として用いてテキストを「分析」できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	使用するテキストについての解説
第3回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第4回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第5回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第6回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第7回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第8回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(6)
第9回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(7)
第10回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(8)
第11回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(9)
第12回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(10)
第13回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(11)
第14回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(12)
第15回	まとめ
第16回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(13)
第17回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(14)
第18回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(15)
第19回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(16)
第20回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(17)
第21回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(18)
第22回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(19)
第23回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(20)
第24回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(21)
第25回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(22)
第26回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(23)
第27回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(24)
第28回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(25)
第29回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(26)
第30回	総括

### 授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

### 授業方法

演習

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

## 教科書

Littérature : 150 textes théoriques et critiques, J. Vassevière, N. Toursel, Armand Colin, 4, 2015, 978-2200601331

Manuel d'analyse des textes, J. Vassevière et al., Armand Colin, 2, 2018, 978-2200619954

## 教科書コメント

プリントを配付する。

## 参考文献コメント

適宜授業で指示する。

## 履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U3602111Z2	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	フランス近代文学読解		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	田上 竜也		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 5時限 仏文院生室.通年 月曜日 5時限 対面授業		

### 授業概要

フランス近現代作品の読解。テキストは履修者の関心に従い、相談の上決定する(候補はネルヴァル、ロートレアモン、ヴァレリー、メーテルランクなど)。

### 到達目標

作品の正確な読解につとめるとともに、さまざまな解釈の広がり把握します。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト読解
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	いままでの内容確認
第17回	テキスト読解
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

### 授業方法

原則対面による演習形式だが、場合によりZoom使用。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

### 準備学習(予習・復習)

各自毎回数ページを読んでくること。とくに指名された箇所は、各版の注など読み込み、どのような解釈が可能か説明できるようにする。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等)70%(出席、聴講態度重視) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴も含む)、無断退出(必要な場合には必ず申告すること)、メールなどは大きな減点対象となります。レポート30%。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内の発表内容をまとめたもの(配布資料含む)をレポートとする。

### 教科書コメント

テキストはコピー配布。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360300101	科目ナンバリング	036B405
講義名	論文指導演習A		
英文科目名	Practice in thesis writing		
担当者名	横川 晶子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 4時限 南1-202.第1学期 火曜日 4時限 対面授業		

### 授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方、論文の形式、論文の作成方法を実践的に学ぶ。また、フランス語圏の文化について関心のあるテーマを見つけ、考察する方法を学ぶ。さらに、論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学ぶ。

### 到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、多角的な知見にもとづいて文学・芸術作品や文化事象の問題点を探り出し、論考の過程を適切に表現する力を身につけ、卒業論文などを執筆できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	授業の内容及び授業の進め方についての説明
第2回	日本語の表記に関する基本的な注意事項を学ぶ
第3回	論理的な文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第4回	論理的な文章を要約する
第5回	論文のテーマを選ぶ
第6回	参考文献の探し方を学ぶ
第7回	参考文献目録の書き方を学ぶ
第8回	テキスト批評の方法を学ぶ
第9回	論文の構成を考える
第10回	引用について学ぶ
第11回	注の作成について学ぶ
第12回	序論及び結論の書き方を学ぶ
第13回	フランス語の要旨の書き方を学ぶ
第14回	総括(1)
第15回	総括(2)

### 授業方法

毎回の授業で授業内容に即したプリントを配布し、具体的な例をあげながら説明をおこなう。授業内容に沿ったレポート課題を複数回出し、提出されたレポートをもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料をよく読んで理解すること。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	90 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

論文作成のルールを身につけ、卒業論文にふさわしいテーマについての論考を適切に表現できることを評価する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却、または授業内で説明を行う。個別にアドバイスを与えることもある。

### 教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

### **参考文献コメント**

必要に応じて授業中に指示する。

### **履修上の注意**

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

履修できるのは、4年次で卒業論文、卒業翻訳、卒業演習を履修する資格がある学生。当年度内での「論文指導演習B」との重複履修は不可。

### **その他**

LMSによりレポート課題を提出してもらうので、PC環境を整えておくこと。個別の連絡はメールで対応します。

講義コード	U360300102	科目ナンバリング	036B405
講義名	論文指導演習B		
英文科目名	Practice in thesis writing		
担当者名	横川 晶子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 4時限 南1-202.第2学期 火曜日 4時限 対面授業		

### 授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方、論文の形式、論文の作成方法を実践的に学ぶ。また、フランス語圏の文化について関心のあるテーマを見つけ、考察する方法を学ぶ。さらに、論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学ぶ。

### 到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、多角的な知見にもとづいて文学・芸術作品や文化事象の問題点を探り出し、論考の過程を適切に表現する力を身につけ、卒業論文などを執筆できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	授業の内容及び授業の進め方についての説明
第2回	日本語の表記に関する基本的な注意事項を学ぶ
第3回	論理的な文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第4回	論理的な文章を要約する
第5回	論文のテーマを選ぶ
第6回	参考文献の探し方を学ぶ
第7回	参考文献目録の書き方を学ぶ
第8回	テキスト批評の方法を学ぶ
第9回	論文の構成を考える
第10回	引用について学ぶ
第11回	注の作成について学ぶ
第12回	序論及び結論の書き方を学ぶ
第13回	フランス語の要旨の書き方を学ぶ
第14回	総括(1)
第15回	総括(2)

### 授業方法

毎回の授業で授業内容に即したプリントを配布し、具体的な例をあげながら説明をおこなう。授業内容に沿ったレポート課題を複数回出し、提出されたレポートをもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料をよく読んで理解すること。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	90 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

論文作成のルールを身につけ、卒業論文にふさわしいテーマについての論考を適切に表現できることを評価する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却、または授業内で説明を行う。個別にアドバイスを与えることもある。

### 教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

### 参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。  
履修できるのは、主に3年次の学生。当年度内での「論文指導演習A」との重複履修は不可。

### その他

LMSによりレポート課題を提出してもらうので、PC環境を整えておくこと。個別の連絡はメールで対応します。

講義コード	U360302101	科目ナンバリング	036B406
講義名	文献調査演習		
副題	卒業論文を提出しない学生にも開かれた授業		
英文科目名	Research and Documentation		
担当者名	CARTON, Martine		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 1時限 中央-505.通年 火曜日 1時限 対面授業		

### 授業概要

卒業論文を提出する学生だけでなく、卒業論文として提出せずに3-4年生の研究を論文としてまとめたいと思う学生も歓迎します。先生と一緒に研究のテーマの設定、論文か発表の構成法、そのために必要な情報を収集する方法、特にフランス語の文献を探す方法を学びます。最後に、論文または発表のレジュメをつくります。

### 到達目標

研究のテーマを決めること、インターネットで情報(本や記事やビデオやウェブサイトなど)を収集すること、論文の構想をまとめること、レジュメをつくること、最後にクラスでパワーポイントで発表すること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介 Choix du sujet 1 de recherches : フランスまたはフランス語に関連する研究対象を絞るためのブレインストーミングを行います。何の研究をしたいのか、何に興味があるのかを手掛かりにします。
第2回	Sujet 1 : Comment préparer un dossier sur le sujet 1
第3回	Préparer le plan du dossier
第4回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 1
第5回	Rédaction par groupe du dossier sur le sujet 1
第6回	Mise en commun des travaux de groupe
第7回	Fin de la rédaction du dossier.
第8回	Compréhension d'une émission radio en français sur le sujet 1
第9回	Faire une émission radio en français sur le sujet 1 en relation avec le Japon
第10回	Les étudiants présentent leurs émissions radio en français sur le sujet 1 en relation avec le Japon
第11回	Compréhension d'un reportage en français sur le sujet 1
第12回	Imiter le reportage sur le sujet 1 et rédiger un reportage sur le Japon
第13回	Imiter le reportage sur le sujet 1 et rédiger un reportage sur le Japon
第14回	Présentation des reportages par les étudiants
第15回	総括
第16回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介 Choix du sujet 2 de recherches : フランスまたはフランス語に関連する研究対象を絞るためのブレインストーミングを行います。何の研究をしたいのか、何に興味があるのかを手掛かりにします。
第17回	Sujet 2 : Comment préparer un dossier sur le sujet 2
第18回	Préparer le plan du dossier
第19回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 2
第20回	Rédaction par groupe du dossier sur le sujet 2
第21回	Mise en commun des travaux de groupe
第22回	Fin de la rédaction du dossier.
第23回	Compréhension d'un documentaire en français sur le sujet 2
第24回	Faire un court documentaire en français sur le sujet 2 en relation avec le Japon
第25回	Les étudiants présentent leurs documentaires en français sur le sujet 2 en relation avec le Japon
第26回	Quizz sur le sujet 2
第27回	Correction du Quizz sur le sujet 2
第28回	Rédiger un résumé en français sur un sujet donné
第29回	Rédiger un résumé en français sur un sujet donné
第30回	総括

### 授業方法

Les étudiants travailleront individuellement ou en groupe.

### 使用言語

日本語・英語以外

### 準備学習(予習・復習)

Préparation de 20-30 minutes avant chaque cours.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les exercices seront corrigés et rendus aux étudiants, les présentations orales seront corrigées et notées à l'oral.

### 履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に出席のこと。

講義コード	U360303101	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習A		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 北1-304.通年 木曜日 4時限 対面授業		

### 授業概要

TCF (Test de Connaissance du Français =フランス語能力試験) 受験対策問題演習などを通して、フランス語能力を高めていくための授業。TCFの受験を前提とした授業。

### 到達目標

TCFのレベルとしてはB1を目指す。実践的な場面で使われているフランス語を理解するために文法の基礎を復習しつつ、応用力をつける。語彙を増やす。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	授業についておよびTCFについての説明
第2回	演習問題その1
第3回	演習問題その1解説および演習問題その2
第4回	演習問題その2解説および演習問題その3
第5回	演習問題その3解説および演習問題その4
第6回	演習問題その4解説および演習問題その5
第7回	演習問題その5解説および演習問題その6
第8回	演習問題その6解説および演習問題その7
第9回	演習問題その7解説および演習問題その8
第10回	演習問題その8解説および演習問題その9
第11回	演習問題その9解説および演習問題その10
第12回	演習問題その10解説および演習問題その11
第13回	演習問題その11解説および演習問題その12
第14回	理解度の確認
第15回	まとめ
第16回	演習問題14
第17回	演習問題14解説および演習問題15
第18回	演習問題15解説および演習問題16
第19回	演習問題16解説および演習問題17
第20回	演習問題17解説および演習問題18
第21回	演習問題18解説および演習問題19
第22回	演習問題19解説および演習問題20
第23回	演習問題20解説および演習問題21
第24回	演習問題21解説および演習問題22
第25回	演習問題22解説および演習問題23
第26回	演習問題23解説および演習問題24
第27回	演習問題24解説および演習問題25
第28回	演習問題25解説および演習問題26
第29回	理解度の確認
第30回	総まとめ

### 授業方法

演習型の授業。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

### 準備学習(予習・復習)

配られたプリントは予習復習に使用すること。プリント内で使われている単語の単語帳を作ることを強く勧める。また、音声資料は最大限に活用してほしい。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	TCFの結果を参照する
学年末試験(第2学期)	50 %	TCFの結果を参照する
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

上の数字はあくまでも目安。TCFの試験を当大学で一年度に2回開催することができる場合は、2回とも受験することが望ましい。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内でのテストと第1学期末テスト、その他の課題などは返却時に授業内で解説をする。

### 教科書コメント

教師作成プリントを使用。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。  
第一回目の授業に出席のこと。

講義コード	U360303102	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習B		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	一丸 禎子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 中央-504.通年 木曜日 4時限 遠隔授業		

### 授業概要

TCF受験を前提に、特に「聞き取り」の力を強化します。

教科書を使った聞き取り練習に加えて、France2などのニュースを視聴し、できるだけ多くのソースから実際に使われているフランス語に触れ、特に時事的な語彙を増やします。

### 到達目標

- ①まず、恐れずにフランス語の情報に接し、見て、聴いて理解することができるという自信をつけましょう。
- ②同時に日常的にフランス語に触れる環境をどのように構築するかを学び、それを実践できるようにしましょう。
- ③年に2回(通常6月と12月)行われるTCFの試験でB1を目指しましょう。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	この授業の進め方と自分でどんな準備をしたらいいかの解説
第2回	TCF、DELTA/DALFの説明と実力テスト
第3回	実力テストの結果分析と、各自の到達目標を立てる
第4回	『Inspire 2』という教科書について:使い方を読んでできているという前提で説明を求めます
第5回	DELTA A1- A2の聞き取り問題;Inspire 2 L.1;語彙の学習の仕方
第6回	DELTA A2の聞き取り問題;Inspire 2 L.1;時事的な語彙を増やす方法1 (France2の使い方)
第7回	DELTA A2の聞き取り問題;Inspire 2 L.1;時事的な語彙を増やす方法2 (Photo hebdo)
第8回	DELTA A2の聞き取り問題;Inspire 2 L.2;時事的な語彙を増やす方法3 (Photo hebdo)
第9回	DELTA A2の聞き取り問題;Inspire 2 L.2;時事的な語彙を増やす方法4 (Photo hebdo)
第10回	DELTA A2の聞き取り問題;Inspire 2 L.2;時事的な語彙を増やす方法5 (Photo hebdo)
第11回	DELTA B1の聞き取り問題;Inspire 2 L.3;時事的な語彙を増やす方法6 (Photo hebdo)
第12回	DELTA B1の聞き取り問題;Inspire 2 L.3;時事的な語彙を増やす方法7 (Photo hebdo)
第13回	DELTA B1の聞き取り問題;Inspire 2 L.4;時事的な語彙を増やす方法8 (Photo hebdo)
第14回	DELTA B1の聞き取り問題;Inspire 2 L.4;時事的な語彙を増やす方法9 (Photo hebdo)
第15回	実力判定
第16回	TCF前期結果の見直しと分析
第17回	DELTA B1の聞き取り問題;Inspire 2 L.5;時事的な語彙を増やす方法10 (Photo hebdo)
第18回	DELTA B1の聞き取り問題;Inspire 2 L.5;時事的な語彙を増やす方法11 (Photo hebdo)
第19回	Inspire 2 L.8;時事的な語彙を増やす方法12 (Photo hebdo);発音(鼻母音)と聞き分け(VTR)
第20回	Inspire 2 L.8;時事的な語彙を増やす方法13 (Photo hebdo);発音(鼻母音)と聞き分け(VTR)
第21回	Inspire 2 練習問題 pp.34-35;時事的な語彙を増やす方法14 (Photo hebdo);半過去の聞き分け
第22回	Inspire 2 練習問題 pp.37-38;時事的な語彙を増やす方法15 (Photo hebdo);書く、話す
第23回	Inspire 2 L.9;時事的な語彙を増やす方法16 (Photo hebdo);日本と比較して考えを述べる
第24回	Inspire 2 L.9;時事的な語彙を増やす方法17 (Photo hebdo);日本と比較して考えを述べる
第25回	Inspire 2 L.10;時事的な語彙を増やす方法18 (Photo hebdo);考察して自分の意見を述べる
第26回	Inspire 2 L.10;時事的な語彙を増やす方法19 (Photo hebdo);考察して自分の意見を述べる
第27回	Inspire 2 L.11;時事的な語彙を増やす方法20 (Photo hebdo);考察して自分の意見を述べる
第28回	Inspire 2 L.11;時事的な語彙を増やす方法21 (Photo hebdo);Web上のフランス語情報の取り扱い方
第29回	Inspire 2 L.11;時事的な語彙を増やす方法22 (Photo hebdo);Web上のフランス語情報の取り扱い方
第30回	まとめと理解度の確認

### 授業計画コメント

Inspire2という教科書には、インターネット上に音源やビデオなどの教材があります。予習をしているという前提で授業を進めます。進捗はあくまで目安です。

### 授業方法

授業は遠隔で、同時配信型(zoom)です。安定したWi-Fi環境とパソコン、もしくはタブレットを用意してください。スマホでの視聴は避けましょう。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

教科書には音源がついています。これを聴いて質問に答えるため、授業の前にあらかじめ聴いて内容を理解している方が良いでしょう(準備していない場合は、他の履修者の時間を奪ってしまうことになるので、お答えできるまで教室で音源を繰り返し聴くことはしません)。授業時間中に扱った問題、素材に関しては授業後によくおさらいをして、特に新しい語彙は単語帳を作って暗記しましょう。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	TCFの結果を参照します
学年末試験(第2学期)	30 %	TCFの結果を参照します
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

基本的にTCFの結果によって成績を評価します(B1が取れていることが望ましい)。病気などによって、TCFが受験できなかった場合は平常点と課題によって評価します。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

全てLMSを通じて行われます。

## 教科書

Inspire 2, A2, Jean-Thierry LE BOUGNEC他, hachette, 初版, 2020, 978-2-01-513579-3

## 参考文献

『フランス語ホームステイライブ』, 一丸禎子, パトリック・レボラル, 三修社, 初版, 2011, 978-4-384-05666-2

## 参考文献コメント

『フランス語ホームステイライブ』は、著者が皆さんと同じぐらいの年齢の人を現地に引率した経験に基づいて書かれています。海外旅行に行くのが難しい状況ですが、この著作ではフランスの日常生活で見られる自然なコミュニケーションを擬似体験することができます。読書によって、本物のホームステイに近い経験ができると思います。

## 履修上の注意

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

## その他

zoomを使っての授業ですが、特別な事情がない限り、ビデオはオンにしておきます。それはみなさんの表情で理解度を測ったり、口元の動きを見て、発音を直したりするのに有効だからです。もし、各自のWi-Fi環境で、接続が安定しない場合、焦らずに入り直してください。こちらではどの時点で誰の接続が切れたかわかりますので、必要ならLMSで補足します。

講義コード	U360303103	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習C		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	川口 覚子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 西2-205.通年 木曜日 2時限 対面授業		

### 授業概要

1) 聞き取り、2) 発音、3) 文法復習など総合的にのばしていくために、様々な角度から進めていきます。TCF試験は年2回おこなう予定(6月、12月)。TCFの受験を前提とした授業です。

### 到達目標

2年間学習したフランス語のレベル確認として、TCF試験B1(300～)を目指します。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス 授業方法の説明 TCFについて
第2回	聞き取り、発音練習、文法問題 毎回この三つのどれかに焦点を合わせて行きます
第3回	聞き取り、発音練習、文法問題
第4回	聞き取り、発音練習、文法問題
第5回	聞き取り、発音練習、文法問題
第6回	聞き取り、発音練習、文法問題
第7回	聞き取り、発音練習、文法問題
第8回	聞き取り、発音練習、文法問題
第9回	聞き取り、発音練習、文法問題
第10回	聞き取り、発音練習、文法問題
第11回	聞き取り、発音練習、文法問題
第12回	聞き取り、発音練習、文法問題
第13回	聞き取り、発音練習、文法問題
第14回	聞き取り、発音練習、文法問題
第15回	理解度の確認
第16回	聞き取り、発音練習、文法問題
第17回	聞き取り、発音練習、文法問題
第18回	聞き取り、発音練習、文法問題
第19回	聞き取り、発音練習、文法問題
第20回	聞き取り、発音練習、文法問題
第21回	聞き取り、発音練習、文法問題
第22回	聞き取り、発音練習、文法問題
第23回	聞き取り、発音練習、文法問題
第24回	聞き取り、発音練習、文法問題
第25回	聞き取り、発音練習、文法問題
第26回	聞き取り、発音練習、文法問題
第27回	聞き取り、発音練習、文法問題
第28回	聞き取り、発音練習、文法問題
第29回	聞き取り、発音練習、文法問題
第30回	理解度の確認

### 授業計画コメント

上記の内容は目安であり、学生の理解度によって変わることがあります。さらに単語、文章を暗記しまとめて小テストを細かくやる予定です。その場合はあらかじめ告知し、評価配分に組み込みます。

### 授業方法

前期は主に教科書を使用し、語彙、表現を暗記し頻繁に小テストを行います。シチュエーションが豊富な教科書なので、その場にあった表現や単語を覚えます。また並行してTCF試験にむけた問題集を使用しながら6月の受験対策をおこなっていきます。後期は12月のTCF試験に向けて教科書、対策問題、音読など対策授業をおこなっていきます。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

学習した語彙や表現を復習してください。課題が出る場合もあります。(音読ファイルを含む)  
TV5の動画をみて聞き取り、フランスの日常、表現を視覚的に学習してください。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	TCF試験
学年末試験(第2学期)	40 %	TCF試験
中間テスト		
レポート		
小テスト	25 %	単語テスト、音読の提出などを含まます
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	5 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

配分はあくまでも参考程度で、総合的に評価します。小テスト、ディクテ、音読などの課題提出も評価に含みます。TCFの受験を前提とします。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題、試験は、対面、遠隔授業ともに、授業で答え合わせをして次につなげます。

## 教科書

場面で学ぶフランス語2 [三訂版], 高橋百代、林宏和、セドリック・ヤヤウイ、ブリジット ホリ、三修社, 2023, 978-4-384-23214-1

## 教科書コメント

教科書を使用します。その他プリントを配布します。遠隔の場合はLMSにアップします。

## 履修上の注意

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。